令和６年度 兵庫県専門コース別研修

児童分野

神谷 牧人

株式会社アソシア代表取締役CEO
阪神北圏域コーディネーター

[自己紹介]

2006年の障害者自立支援法施行前に、理想の福祉を学ぶためデンマーク留学を行う。福祉でありながらもオシャレな北欧の施設に刺激を受け、2009年に現在のアソシアを起業。現在は兵庫県で圏域コーディネーターを務める傍ら、大学非常勤講師や県内外で研修や講演等も行う。また、市町村の自立支援協議会や障害福祉計画策定委員等の他に、行政の総合計画策定等にも参画。

[職　歴]

1999年 精神障害者家族会運営の小規模作業所
2007年 社会福祉法人 残波かりゆし会
2009年 株式会社アソシア 起業

[活動歴]

2008年 沖縄県サービス管理責任者研修 就労分野 講師（地域生活分野 講師 2010 / 2012 / 2013）
2009年 厚生労働省社会援護局障害保健福祉部 精神障害者保健福祉サービス提供体制整備促進研修 講師
2012年 琉球大学 非常勤講師（至 2018年）
2013年 社会福祉法人 西翁福祉会 理事（現評議員） / 沖縄国際大学 非常勤講師（至 現在）
2015年 国立障害者リハビリテーションセンター 発達障害就労移行支援者研修会 講師
2015年 日本精神障害者リハビリテーション学会 理事（至 2017年）
2022年 テレビ朝日「日本のチカラ」出演（#264 福祉をオシャレに！～ここが私の働く場所～）
2024年 厚生労働省社会援護局障害保健福祉部 部内職員勉強会 講師

相談支援専門員とサービス管理責任者等が専門的な知識とスキルを獲得するために、共通して受講できる専門コース別研修の標準プログラム案を開発した理由

分野別研修の廃止に伴い、各分野特有の知識・技能等を習得する機会として、サビ管等に係る専門コース別研修の創設が望まれる。

児発管、各分野サビ管で行う個別支援計画の作成には、各分野の専門性を要するため、特に「児童」については、他分野と異なる視点・技術が求められる場面が多いとされている。

児童と就労等、支援が必要な利用者や支援方法及びアプローチ等は異なることから、分野別の研修実施は必要であると考えられる。**（※兵庫県においては、就労分野はR5年度に1回、R6年度は２回開催済。児童はR6年が初開催）**

調査研究全般に、サビ管・児発管と相談支援専門員の合同研修を実施することが有効と確認できた。児発管対象の研修プログラムだが、児童期の相談支援専門員が受講することを意識しておく。

「相談支援専門員及びサービス管理責任者等の専門知識等の向上並びに高齢化対応を含めた連携促進のための研究」より抜粋

目　次

01	計画相談の基本姿勢	講師｜濱垣 隆之
02	児童支援の基本姿勢	講師｜青木 悠
03	発達支援におけるアセスメント	講師｜杉下 味香
04	発達支援におけるアプローチ	講師｜亀澤 康明

令和６年度 兵庫県専門コース別研修

児童分野

01 計画相談の基本姿勢

1）相談支援専門員の基本姿勢
2）児発管と相談員の役割
3）モニタリングについて
4）まとめ

02 児童支援の基本姿勢

03 発達支援におけるアセスメント

04 発達支援におけるアプローチ

濱垣 隆之

社会福祉法人ゆたか会相談支援事業所はんど 管理者
北播磨圏域コーディネーター

[自己紹介]

2005年から兵庫県委託事業障害者（児）地域療育等支援コーディネーターとして相談支援をはじめる。その後、市委託障害者相談支援を経て、基幹相談支援センターを担当。そのなかでひきこもり・不登校に関する相談も多く受けていたことから市と交渉し、障害の有無に関係なく相談対応ができるよう事業を拡大。現在は、北播磨圏域コーディネーターとして自立支援協議会のアドバイザーや障害福祉計画策定委員、相談支援従事者（現任、初任）研修の企画構成員として取り組む。（社会福祉士、精神保健福祉士、主任相談支援専門員）

[職　歴]

2004年 社会福祉法人徳島県身体障害者連合会
2005年～現在 社会福祉法人ゆたか会

[活動歴]

2021年～現在 加西市障害者地域自立支援協議会運営会議　アドバイザー
2021年～現在 小野市障害者地域自立支援協議会運営会議　アドバイザー
2022年 兵庫県相談支援従事者現任者研修企画構成委員（2年間）
2023年 小野市障害福祉計画策定委員会委員
2024年 兵庫県相談支援従事者初任者研修企画構成委員

Copyright © 2024 濱垣 隆之 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

① こどもの気持ちと家族の思いの整理

大切なポイントとして、給付申請者は保護者となります。よって、先ずは保護者（ご家族）の希望からサービスがスタートします。ここで重要なのが、「ご家族の想い」と「子どもの想い」です。よく、本人主体とありますが、果たしてどちらが「本人」なのでしょうか？「者」の支援に比べ、「児」の支援の難しさはここにあります。

　あまり着目されておりませんが、この「言葉の定義」をしっかりしないと、「親の主観」「先生の主観」「支援者の主観」が混在し、一体、誰の何のための支援になっているかが分からなくなってしまいます。

Copyright © 2024 濱垣 隆之 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

② ３つの視点

■日常性

児童が置かれている日常において、生きづらさ（問題や課題）が起こっているわけです。家庭や学校、その他の集団生活等の日常で「障がい」が起因となり「どんな生きづらさ」があるのかを具体的な事実を共有することがとても重要となります。

■専門性

専門性とは、日常性において起こっている生きづらさに対して、どのような手法を用い、どこまで解決（改善）される可能性があるのかを、本児・家族・学校・事業者・相談員等で共通認識を持つことが重要で、共通する指標が５領域となります。

■理念

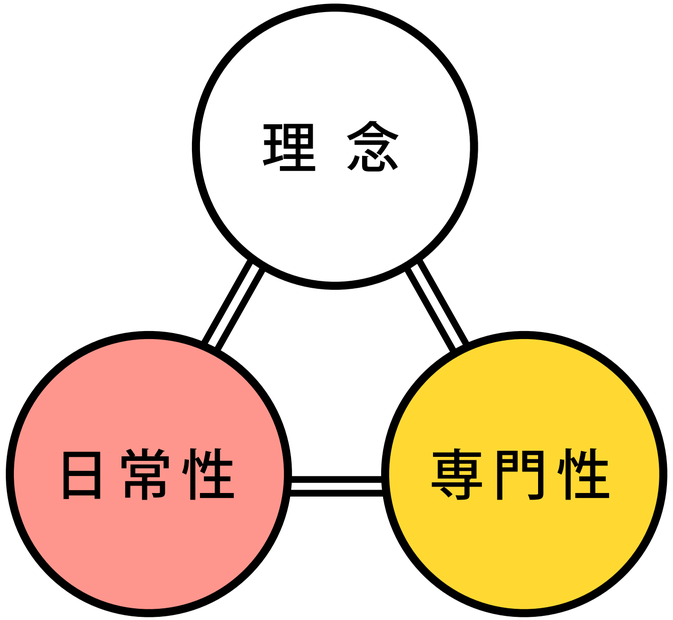
理念は、いわゆる本児・家族・学校・事業者・相談員も含めた、みんなの共通するゴールです。誰かの主観がゴールではありません。大切なのはノーマライゼーションやエンパワメント、子どもの人権や権利がチームの共通するゴールとなります。

Copyright © 2024 濱垣 隆之 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

③ 日常性≠社会性

「言葉の定義」の重要性を話しましたが、近年の社会構造の変化を見ていると、「社会性」はもはや主観になっているのではないでしょうか？高度経済成長期であれば、同じことをやっていれば、多くの人が昇進し、一戸建てを購入できる時代でした。

しかし、現在はどうでしょう？YouTuberやフリーランスなどでも収入を得ることが可能です。そこでの言葉遣いやスキルなどは、会社員とは違ったものが必要とされます。「社会性」といった「誰かの主観による模範とされた基準」が指標ではなく、本児や家族が置かれている地域や環境・文化下において起こっている個別的な日常に対し、「理念」をゴールとし、「専門性」を用いアプローチすることが重要となります。



Copyright © 2024 濱垣 隆之 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

① 日常性を可能な限り客観的にアセスメントする

誰の困り事であっても平等に扱う（偏見や主観を介さずに聴く）。ただし、誰の困り事なのか？は整理しながら記録に残す事が重要です。

ご家族

授業中に～

家庭内で～

放課後に～

姉妹関係で～

食事中に～

友人関係で～

親子関係で～

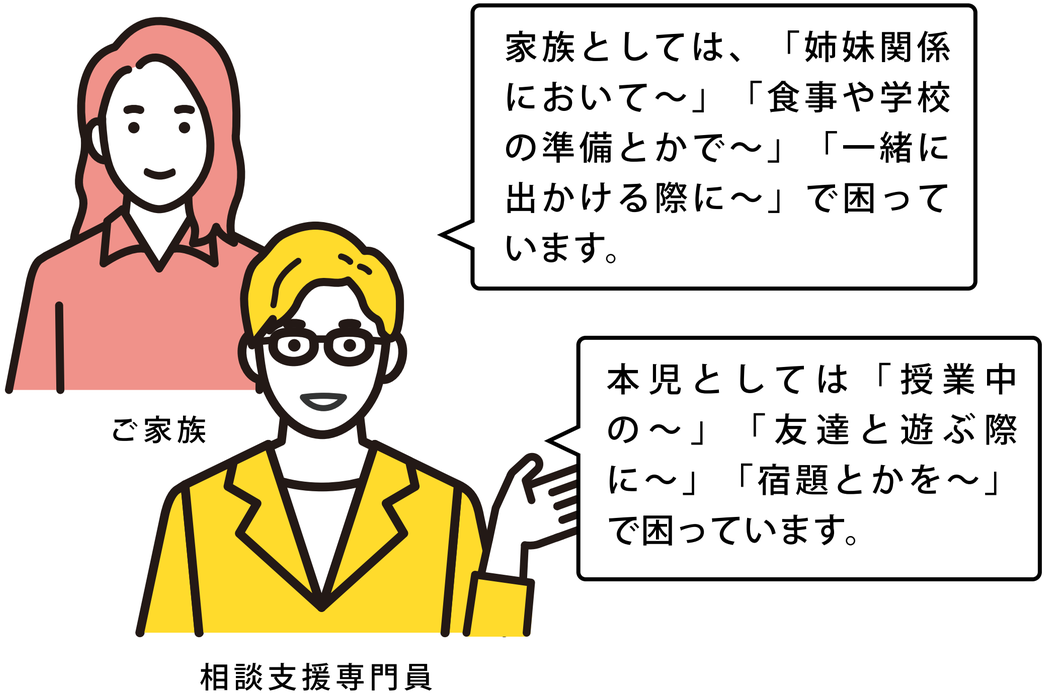
これは、家族が困っているのかな？

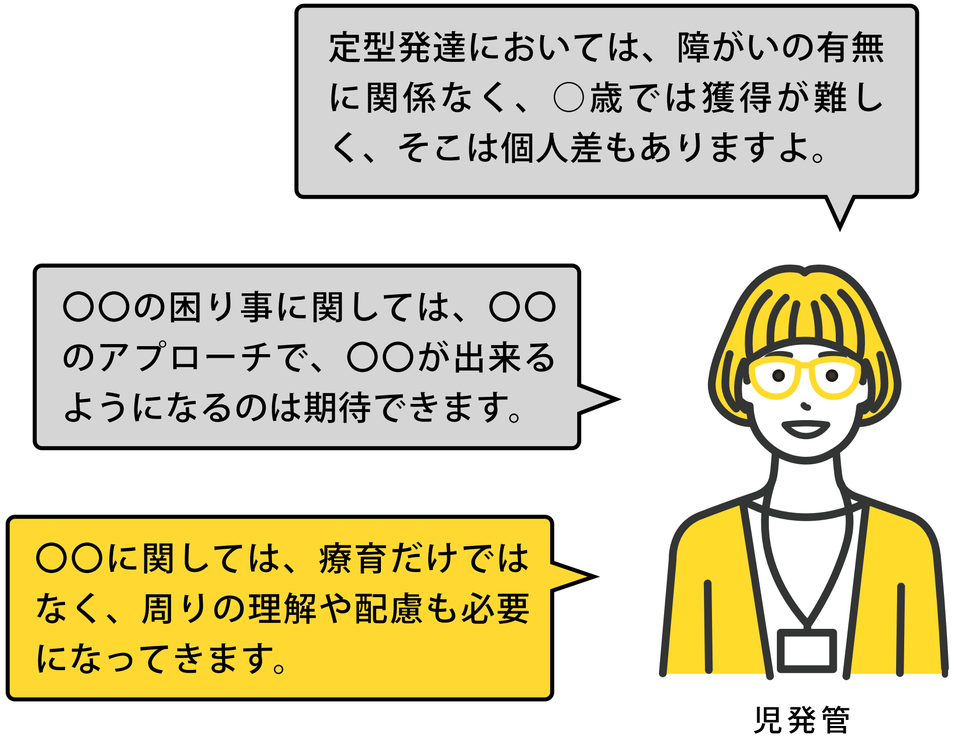
これは、本児が困っているのかな？

相談支援専門員

Copyright © 2024 濱垣 隆之 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

② 専門性で可能な範囲のコンセンサス





Copyright © 2024 濱垣 隆之 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

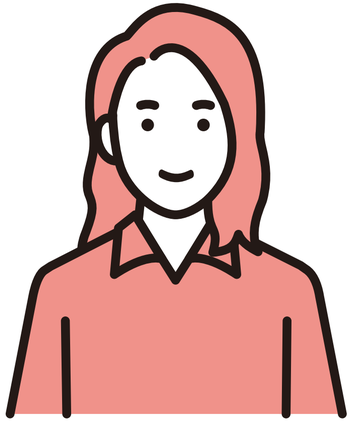
③ 目的（理念）はエンパワメントやノーマライゼーション

基幹相談支援センター

障がい理解に関する啓発活動や、社会に対しての合理的配慮などは、本児だけでなく、地域の共通する課題なので、地域づくりの一環として一緒に取り組みましょう！

地域への理解や合理的な配慮などについて、福祉サービスではないので、基幹や委託相談にも力を借りたいな。

相談支援専門員



ご家族

〇〇に関しては、療育だけではなく、周りの理解や配慮も必要になってきます。

児発管

Copyright © 2024 濱垣 隆之 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

3）モニタリングについて

① 3つの視点＋主訴でのモニタリング

■日常性

家庭生活や学校生活等において、以前と今とでは「生きづらさ」が解消し「日常」が変化したのか？が確認すべき最も重要なポイントです。

■専門性

日常の変化が基準となり、事業所が提供している支援が効果的であったのか？それとも見直す必要性があるのか？が重要なポイントです。

■理念

誰かの偏った想いに引っ張らていないか。エンパワメントやノーマライゼーションの理念に則っているのか？が重要なポイントです。

＋

■主訴

大切なのは「本人の気持ち」です。楽しく感じているのか？成功体験として感じているのか？また、「ご家族の満足度」も重要なポイントです。

Copyright © 2024 濱垣 隆之 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

② 明日から使える裏技紹介

■想いの乖離

ご家族とご本人の想いが異なった場合のスタンス

■「分からない」

「イメージができない」方への想いの引き出し方

■チームアプローチ

より良い関係機関との連携、協力の方法

Copyright © 2024 濱垣 隆之 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

4）まとめ

① インクルージョンが目的

放課後等デイサービスなどの福祉サービスは、障害児への支援として重要な役割を果たしますが、一般の教育や社会活動から分離された環境で提供されることが多く、障害児が健常児とともに過ごす機会が限られ、相互理解や共生の促進が図れずインクルージョンに逆行する側面がある事への責任と自覚を持ちましょう。

地域社会から子どもを引き離している

一般的社会の場から子どもを引き離している

子どもの自由な時間から時間を奪っている

家族との時間を奪っている

Copyright © 2024 濱垣 隆之 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

② 障害のある子どもの権利について

子どもは一人の人間、人としてのあたりまえの尊厳、人権を持つ権利の主体「子供はだんだんと人間になるのではなく、すでに人間なのだ」ヤヌシュ・コルチャック。子どもは、「成長・発達途中」という特別な過程にある。だからこそ特別な権利。
また、子どもの権利条約3条に「子どもの最善の利益」とあり、そのために必要なこととして、子どもたちの状況に応じて「子どもの声を聴く」ことが大事であるとされています。「子どもの声を聴いてものごとを決めていく」そのためには、「子どもたちが過ごす日常生活の中」で発達段階に応じた対応が必要。

Copyright © 2024 濱垣 隆之 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

③ ３つの視点

テストで100点を取れるようにしたり、かけっこで１番になるために支援するのではありません。障がいがあっても可能な限り障がいがない児童と同等の生活が過ごせるように、家庭生活や学校生活において、成功体験だけではなく失敗体験も含めて、何事にも自分で考え決めて行けるようになるために支援を行うのです。

支援においては、その年齢で完璧に出来る状態を目指すのではありません。定型発達でも個人差があるので、サービスで出来る事と出来ない事を確認します。サービスで出来ない（無い）事があったとしても、サービス等利用計画は「等」があるように、家族会やペアレントトレーニングなどのインフォーマルなサービス等の活用や情報提供、協議会や部会等を通した間接的な支援も必要となります。

そして、「今の状態」や「将来の状態」を図る際にも、抽象的で曖昧な「社会性」という個人のバックグランドに影響を受ける主観的なものを指標とせずに、本児を取り巻く環境や地域性、文化、習慣、風習、親の価値観、地域の価値観、友達との関係性も踏まえ（アセスし）た日常性（個別性）を指標としていくことが大切となります。

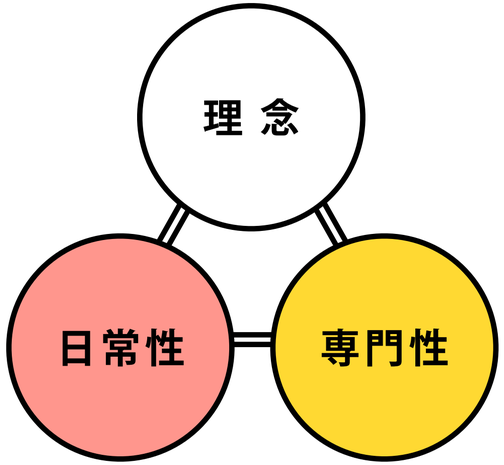
Copyright © 2024 濱垣 隆之 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

4）まとめ

振り返り

今日ここで紹介したキーワードを思い出しながら、今までの自身（事業所）の「視点」や「支援」を振り返り、新たな気づきや明日から取り入れたい事などをグループで共有しましょう！

支援者自身の価値観などで判断するのではなく、本人や家族の「日常性」においての希望や困り事を把握し、権利保障やエンパワメント、ノーマライゼーションという軸（姿勢）を保つ事が重要です。



地域社会から子どもを引き離している

一般的社会の場から子どもを引き離している

子どもの自由な時間から時間を奪っている

家族との時間を奪っている

Copyright © 2024 濱垣 隆之 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

令和６年度 兵庫県専門コース別研修

児童分野

01 計画相談の基本姿勢
02 児童支援の基本姿勢
1）障害児を取り巻く環境
2）児・者の支援の違い
3）児童期支援の基本視点
4）まとめ
03 発達支援におけるアセスメント
04 発達支援におけるアプローチ

青木 悠

NPO法人ソーシャルサポートセンターひょうご 代表理事
株式会社Elsias 代表取締役

[自己紹介]

法人の理念「ココロとからだに健康を提供します。」「他職種がチームとなりそのひとらしい地域生活を支えていきます。」「人として成長しつづけます。」この３つを理念として日々活動しています。グループホームの世話人からはじまり、成人の方々と関わる中で幼少期からの療育の必要性や医療看護との連携の重要性を感じ児童分野や看護分野の事業を始める。現在は採用人材サポート事業も行っている。（児童発達管理責任者・社会福祉士・相談支援専門員・介護福祉士）

[職　歴]

2012年 ソーシャルサポートセンターひょうご　グループホーム事業を承継
2014年～2016年 グループホーム増室
2017年 児童発達支援事業所わかば開設
2019年 児童発達支援わかば西神戸開設
2020年 放課後等デイサービスわかばプラス開設
2021年 株式会社Elsias訪問看護ステーション設立

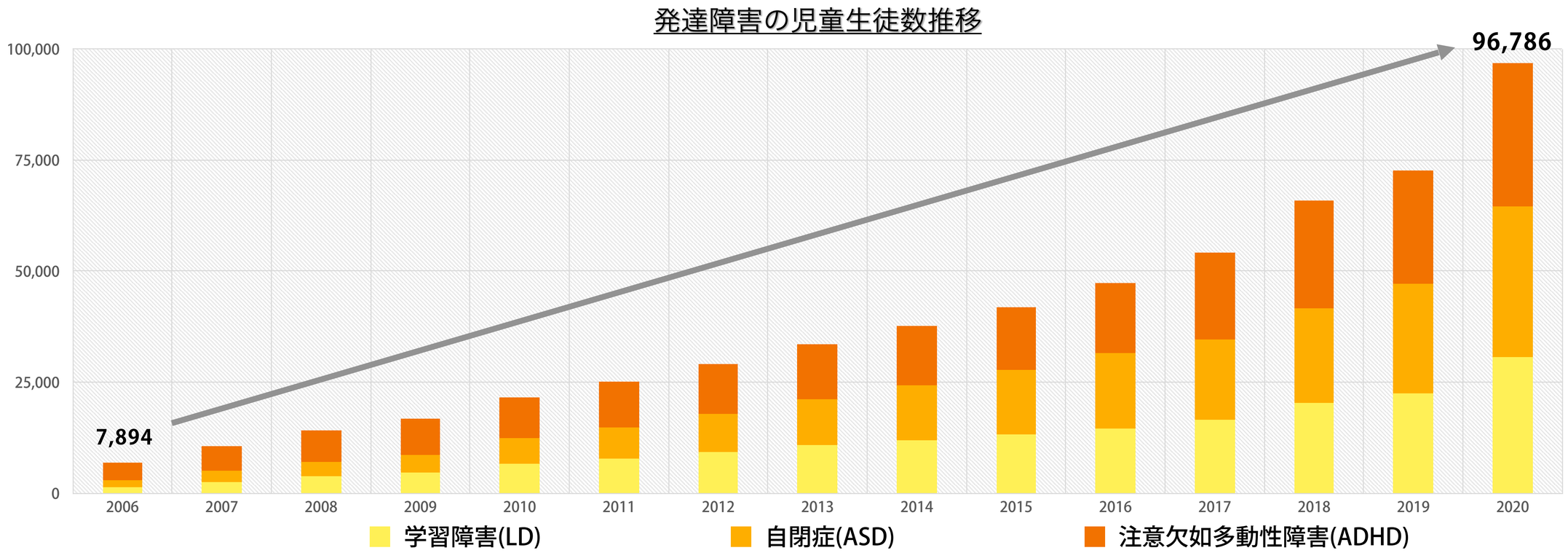
[活動歴]

2021年 明石市ユニバーサル事業コアメンバー
2023年 兵庫県サビ児管初任者研修講師

Copyright © 2024 青木 悠 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

1）障害児を取り巻く環境

① 発達障害の児童生徒数推移



通常学級に在籍する小中学生の8.8%に学習面や行動面で著しい困難を示す発達障害の可能性

※文部科学省：令和2年度 通級による指導実施状況調査より抜粋作成　（※文部科学省の調査による2022年度の統計データ）

Copyright © 2024 青木 悠 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

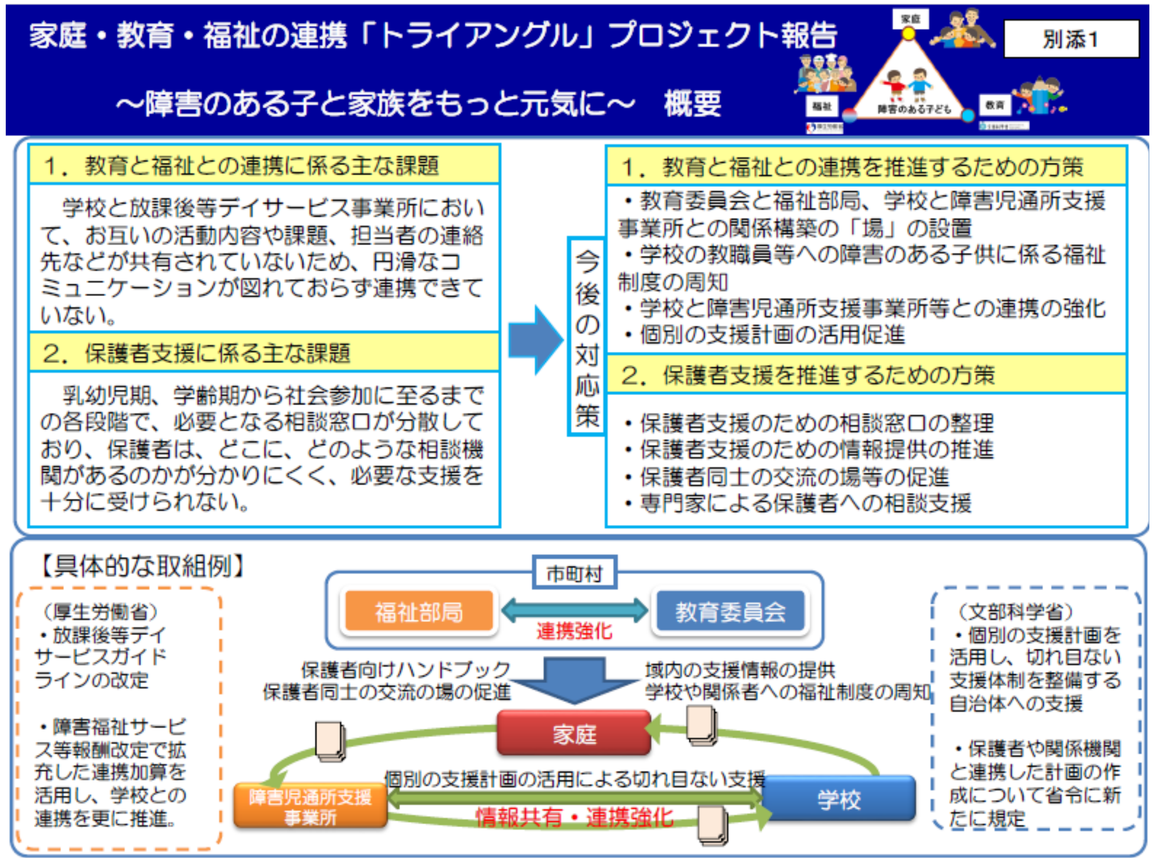
② トライアングルプロジェクト

発達障害をはじめ障害のある子供たちへの支援に当たっては、行政分野を超えた切れ目ない連携が不可欠であり、一層の推進が求められているところです。

特に、教育と福祉の連携については、学校と児童発達支援事業所、放課後等デイサービス事業所等との相互理解の促進や、保護者も含めた情報共有の必要性が指摘されています。こうした課題を踏まえ、各地方自治体の教育委員会や福祉部局が主導し、支援が必要な子供やその保護者が、乳幼児期から学齢期、社会参加に至るまで、地域で切れ目なく支援が受けられるよう、文部科学省と厚生労働省では、「家庭と教育と福祉の連携『トライアングル』プロジェクト」を発足し、家庭と教育と福祉のより一層の連携を推進するための方策を検討

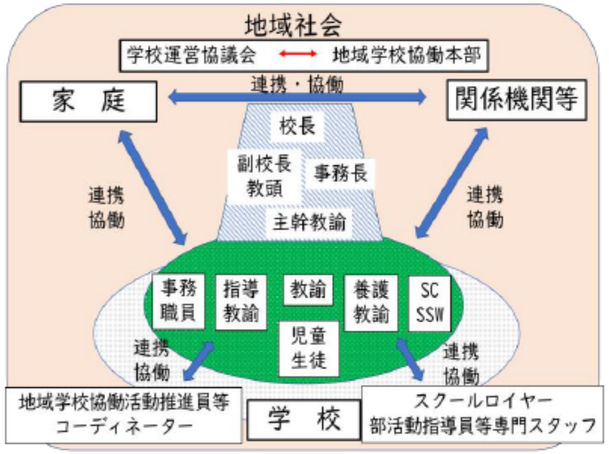
Copyright © 2024 青木 悠 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

③ 教育と福祉の一層の連携強化『トライアングルプロジェクト』



訪問支援が可能な場所

幼稚園・保育園・学童保育
小学校・中学校・高等学校
乳児院・児童養護施設　等



図：チーム学校における組織イメージ
令和4年改訂生徒指導提要（文部科学省）

Copyright © 2024 青木 悠 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

2）児・者の支援の違い

Work 05

① 保護者が申請者である

大人は給付申請者はご本人であるが、児童では給付申請者は「保護者」となっています。よって、児発管は申請者でもある「保護者」の意向を中心に聞いて行くことになります。故に、インテーク時では、どうしても子どもよりも保護者のニーズが前面に出やすいです。では、先ほどと同じような質問です。計画作成の際に保護者の意向と本人の意向が異なった際に、「何を根拠」に「どう」しますか？

対象	申請者	事業内容	根拠法令
子ども	保護者	子ども固有事業	児童福祉法
	ご本人	者共通事業	障害者総合支援法
大人	ご本人	者固有事業	

Copyright © 2024 青木 悠 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

２）児・者の支援の違い

Work 06

② 発達段階を理解した専門的な支援

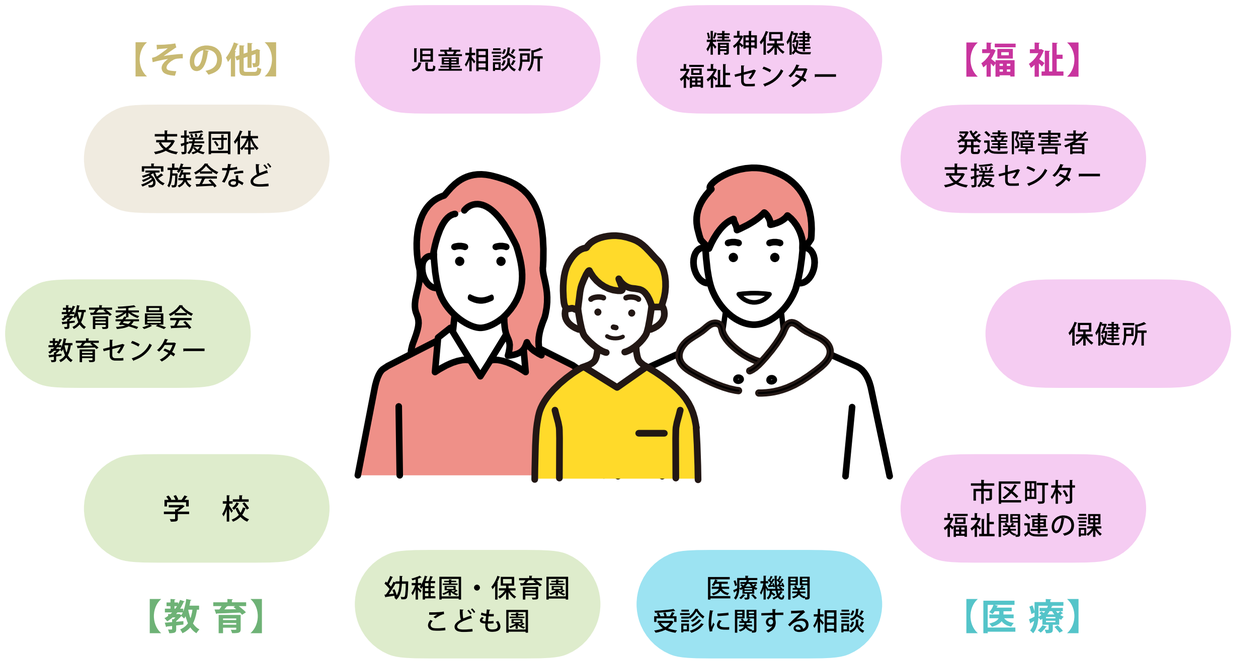
胎生期	
新生児期（おおよそ２か月まで）	
乳児期（主として０～３歳未満）	
幼児期	前期（主として３歳～５歳未満）
	後期（主として５歳～就学まで）
学童期（主として就学～１２歳）	
思春期（主として１３歳～１７歳）	
青年期	前期（主として１８～２０歳）
	後期（主として２０歳代）
成人期	前期（主として３０～４０歳代）
	中期（主として５０歳代～６５歳未満）
	後期（主として６５歳以上）

支援の視点	学童期 → 思春期 → 成人への移行
発達支援	・有能感の獲得 ・体験の積み増しによる自己肯定感の育成 ・自他比較（自己理解・他者理解） ・仲間形成　・自己表現方法の獲得 ・自己コントロール方法の獲得
ソーシャルスキル	・小集団における社会性の芽生え ・集団における行動スキルの獲得 ・個別のソーシャルスキルの獲得 ・個別のソーシャルスキルの実用化
余暇支援	・好きな遊びを見つける ・好きな遊びや活動に没頭する ・趣味や嗜好を広げる、深める ・趣味を確立する

Copyright © 2024 青木 悠 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

2）児・者の支援の違い

③ ライフステージに応じた包括的な支援

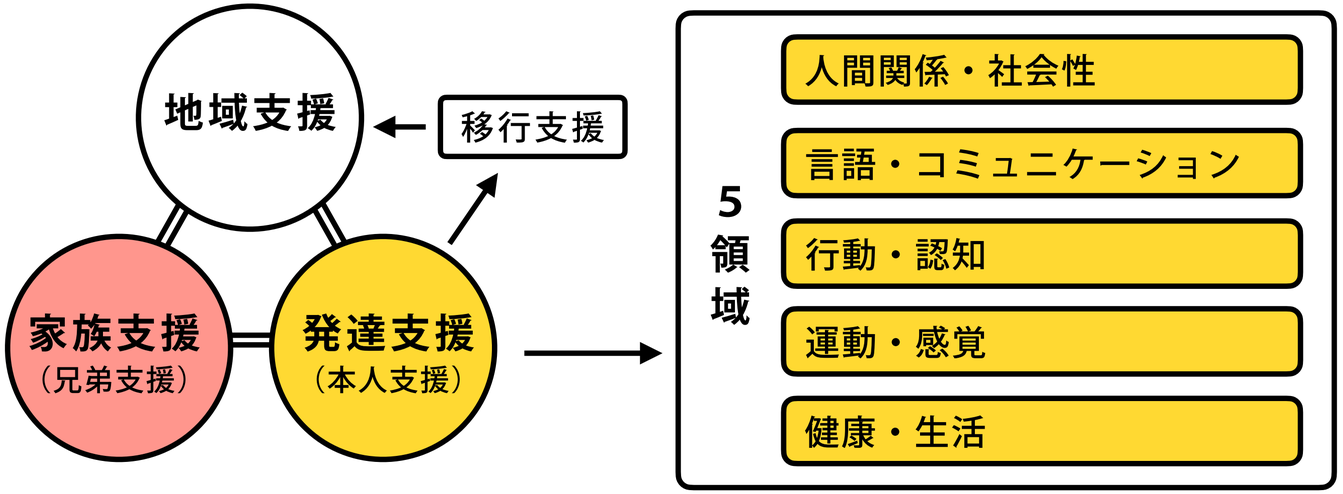


者と児のもっとも大きな違いとしては、「ライフステージの変化」が大きいという事です。大きなステージで考えても「保育」から「教育」そして「就労（働く・自立）」があります。それだけではなく、児童にとっては学年が変わる事は、とても大きな環境の変化となります。その変化に応じて私たちは適切な関係機関と連携し、ご本人と保護者が安心できる包括的なサポート体制を構築することがとても重要となります。

Copyright © 2024 青木 悠 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

① 発達支援の３つの支援と５領域の関係性

大切な基本的な視点とは、「発達支援（本人支援）」だけではなく「家族支援」や「地域支援」も同じように視点として持って置かなければなりません。その中において、発達支援の考え方を５つの領域において捉え、支援（計画）することが必須となりました。



Copyright © 2024 青木 悠 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

3）児童期支援の基本視点

① 児発と相談の役割で考える５領域とは （図：神谷 牧人 考案）

相談 日常性として表出されやすい領域

相談支援専門員が、本人や家族の希望や満足度として評価（モニタリング）する領域

相談支援専門員

習い事や余暇活動もインフォーマル支援として週間スケジュールには記載。親に対しても家族会などの紹介も積極的に支援！

人間関係・社会性

他者との関わり（人間関係）の形成
自己の理解と行動の調整
仲間づくりと集団への参加

健康・生活

健康状態の維持・改善
生活リズムや生活習慣の形成
基本的生活リズムの獲得

短期入所や訪看など他のサービスの調整

言語・コミュニケーション

言語の形成と活用
言語の受容及び表出
コミュニケーションの基礎的能力の向上
コミュニケーション手段の選択と活用

順序性

行動・認知

認知の発達と行動の習得
空間・時間、数字の概念形成の習得
対象や外部環境の適切な認知と適切な行動の習得

順序性

運動・感覚

姿勢と運動・動作の向上
姿勢と運動・動作の補助的手段の活用
基本的生活スキルの獲得

児発 特に専門性が必要な領域

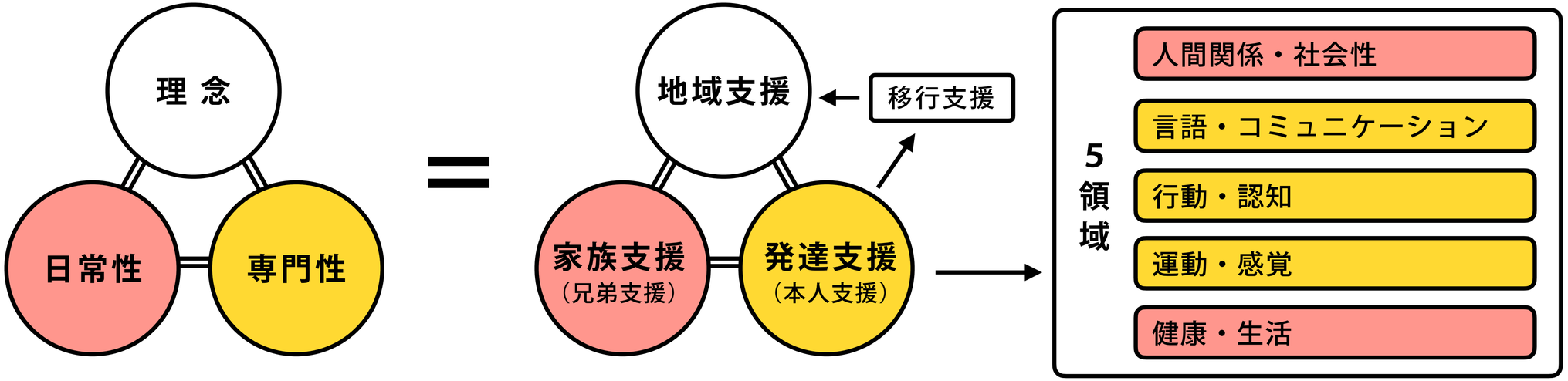
児発管（事業所）が、その専門性（知識＋手法）を持ってアプローチする領域

児発管

Copyright © 2024 青木 悠 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

② 相談の３つの視点と児童期支援の３つの支援（５領域）の関係性

相談の３つの視点と児童期支援の３つの支援の目指している目標は同じです。１人の子どもを取り巻く５領域を整理し、それぞれの視点と役割を持ち支援をする必要性があります。また、発達支援は地域社会に出るための準備（移行支援）を見据えて行う視点も必要です。



Copyright © 2024 青木 悠 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

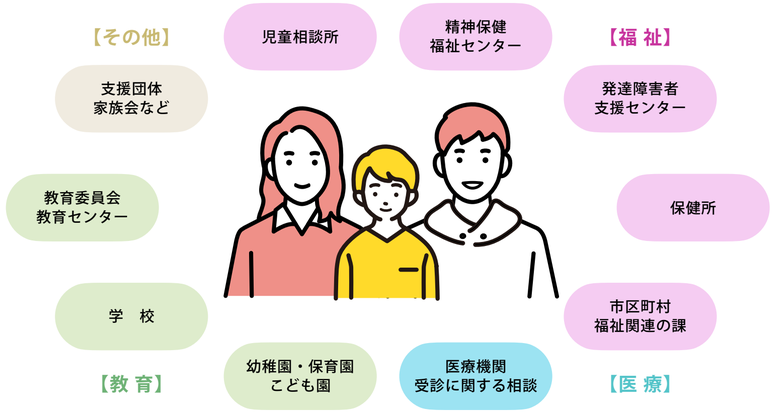
4）まとめ

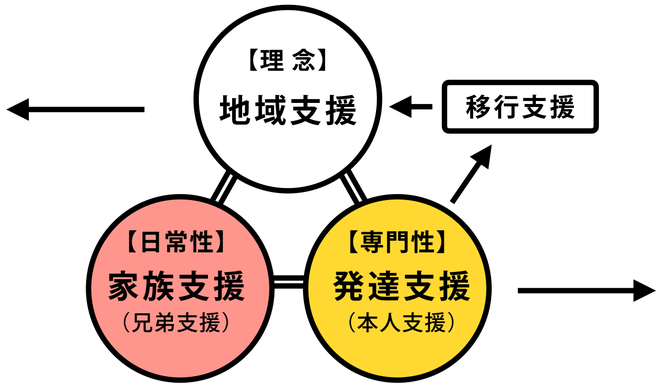
振り返り

今日ここで紹介したキーワードを思い出しながら、今までの自身（事業所）の「視点」や「支援」を振り返り、新たな気づきや明日から取り入れたい事などをグループで共有しましょう！

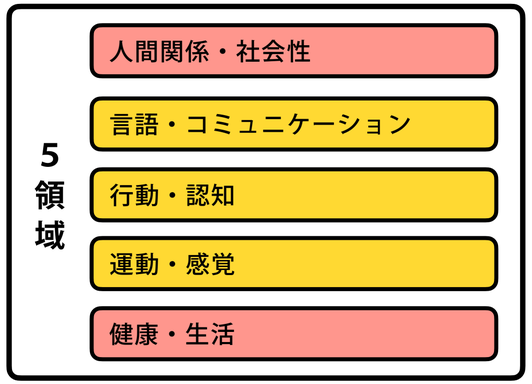
児童期支援の基本姿勢では、大人と異なる児童特有の支援を理解し、児発管と相談支援専門員が各々の専門性や領域に特化することが、本人や家族に対して切れ目のない支援に繋がります。

③ ライフステージに応じた「同世代と可能な限り同等な体験や生活を守ための」包括的な支援





① 保護者が申請者である



② 発達段階に応じた支援

Copyright © 2024 青木 悠 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

令和６年度 兵庫県専門コース別研修

児童分野

01 計画相談の基本姿勢
02 児童支援の基本姿勢
03 発達支援におけるアセスメント
1）アセスメントとは
2）面接について
3）観察について
4）検査について
5）支援計画作成前の課題整理
6）まとめ
04 発達支援におけるアプローチ

杉下 味香

一般社団法人こころ相談研修センター 代表理事

[自己紹介]

「子ども・保護者・関係者が気軽に相談できる心のよりどころに」を理念に、児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等（学校園）訪問支援・カウンセリング・研修・発達検査を実施。 教育センター等の教育機関に従事してきた経験から、子どもたちの自死予防策の一つとして、フリースクールを開所。また、地域で身近な存在になれるよう心理や福祉を学ぶ大学生、トライヤルの中学生の体験実習先を担う。（児童発達支援管理責任者・臨床心理士・公認心理師・教員免許）

[職　歴]

2008年 明石市立松が丘小学校・関西国際大学心理臨床センター
2009年 兵庫県立特別支援教育センター・兵庫県スクールカウンセラー
2012年 猪名川町教育研究所・兵庫県、明石市スクールカウンセラー・明石市青少年育成センター
2013年 心のところ
2015年 NPO法人市民サポートセンター明石
2016年 一般社団法人こころ相談研修センター
2023年 病院（小児科）

[活動歴]

2012年 特定非営利活動法人播磨発達サポートネットSOWER　理事
2020年 明石市自立支援協議会（こども部会） 研修委員
2023年 兵庫障害児放課後ネットワーク　メンバー
2023年 明石市サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者連絡会　コアメンバー

Copyright © 2024 杉下 味香 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

① アセスメントの手法

アセスメントとは、面談のみで行うものではありません。対象となる方の状態や行動の特徴を観察したり、検査など行うことで、今後の方向性を検討します。課題だけでなく、すでに出来ている事や得意なことも見えてきます。困り事や課題だけではなく、「興味関心」や「強み」などを知ることが支援にとっては重要な手がかりとなります。

1）面接法　会話の中で生育歴・日常生活、願いや要望を聴く

2）観察法　行動を観察してチェックする

3）検査法　知能や発達段階を標準化された検査で調べる

Copyright © 2024 杉下 味香 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

① 面接時に押さえるポイント（５領域20項目）

旨示「障害児通所給付費に係る通所給付決定事務等について」（令和６年４月）において、市町村が支給決定の際に、介助の必要性や障害の程度の把握のために実施する「５領域　20　項目の調査」の結果について、保護者に対し利用する事業所に交付するよう依頼することが望ましいとされている。よって、事業所においても「５領域 20 項目」を面談において保護者に確認することが必要とされている。

5領域	20項目
人間関係・社会性	人との関わり / 遊びや活動 / 集団への参加
言語・コミュニケーション	２項関係 / 表出 / 読み書き
行動・認知	危険回避行動 / 注意力 / 見通し / 見通し / その他
運動・感覚	感覚器官 / 感覚器官 / 姿勢の保持 / 運動の基本技能 / 運動の基本的技能
健康・生活	食事 / 排せつ / 入浴 / 衣類の着脱

Copyright © 2024 杉下 味香 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

② 面接時における基本的姿勢

「積極的傾聴（Active Listening）」は、米国の心理学者でカウンセリングの大家であるカール・ロジャーズ（Carl Rogers）によって提唱されました。ロジャーズは、自らがカウンセリングを行った多くの事例（クライエント）を分析し、カウンセリングが有効であった事例に共通していた、聴く側の3要素として「共感的理解」、「無条件の肯定的関心」、「自己一致」をあげ、これらの人間尊重の態度に基づくカウンセリングを提唱しました

共感的理解	相手の感情や経験を深く理解し、その人の立場に立って感じる力や態度
無条件の肯定的関心	相手の話を良い悪いと決めつけず、ありのままを受容し、尊重する
自己一致	感情と行動が一致していることで、相手も自分自身の内面に向き合いやすくなる

Copyright © 2024 杉下 味香 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

2）面接について

Work 10

③ 面接時における基本的姿勢

自分は、ブランコの順番を守っていたのに、A君が順番を守らずに割り込んで来たから殴ったんだ！悪いのはA君なのに、僕だけが怒れられるのはおかしい！

支援者の価値観

支援者自身の経験や感情に基づき、**支援者自身のやり方**でのアドバイスや助言

条件付きでの肯定的関心

相手の**悪い所を指摘**し、それを**直すのであれば認める**と言うコメント

共感的理解

相手の感情や経験を深く理解し、その人の立場や態度を汲んでのコメント

無条件の肯定的関心

相手の話を**良い悪いと決めつけず**、ありのままを**受容**し、尊重するコメント

Copyright © 2024 杉下 味香 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

3）観察について

① 観察するポイント

多動性	手足が動いていないか。視線はどこを見ているか。
注意集中	集中の程度。雑音や視覚刺激に対してどうか。
意欲・情緒	意欲的・非協力的・不安定・人見知りがあるか。
固執性	状況や気持ちの切り替えができるか。
言語	挨拶などのやりとりができるか。独特の言い回しはないか。 吃音。言葉に出しながら課題に取り組むか。
コミュニケーション	ジェスチャーを用いるか。会話のやりとりはスムーズか。 上手くできないとき、困ったときは助けを求めるか。 褒められると喜んでいるか。

Copyright © 2024 杉下 味香 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

3）観察について

Work 11

② 観察（演習）

先生が「右をみて」と伝えると、本児は右を見ませんでした。なぜでしょうか？

例）見たけど違う方向だった

Copyright © 2024 杉下 味香 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

４）検査について

① 検査の種類

気になるところ	心理検査	対象年齢
言語発達	質問ー応答関係検査サマリープロフィール	２歳～就学前
発達	新版K式発達検査	０歳～成人まで
発達	遠城寺式乳幼児分析的発達検査法	０歳～４歳７か月
シンボル（表象機能） 自閉症スペクトラム	太田ステージ評価	小学生～成人
社会参加に必要な生活への適応能力	S-M社会生活能力検査	乳幼児～中学生
知能	K-ABC II	２歳６か月～18歳11か月
知能	WISC検査	５歳０カ月～16歳11カ月
心理	バウム	幼児～成人
心理	箱庭	幼児～成人

Copyright © 2024 杉下 味香 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

② 社会生活能力の測定領域と５領域との対応

S－M社会生活能力検査は、子どもの普段通りの社会生活能力（自立と社会参加に必要な生活への適応能力）を測定するもので、検査時の子どもの状態に影響されることなく普段の能力が測定できます。その内容が５領域に対応する測定領域が多いので、検査などの導入も検討されている方はオススメです。

測定領域	内容	対応する主な5領域
身辺自立	衣服の着脱・食事・排せつなどの身辺自立に関する能力	健康・生活／運動・感覚
移動	自分の行きたい所へ移動するための能力	運動・感覚／認知・行動
作業	道具の扱いなどの作業遂行に関する能力	運動・感覚／認知・行動
コミュニケーション	ことばや文字などによるコミュニケーション能力	言語・コミュニケーション
集団参加	社会生活への参加の具合を示す能力	人間関係・社会性
自己統制	わがままを抑え、自己の行動を責任をもって目的に方向づける能力	認知・行動／人間関係・社会性

この検査は子どもの普段の様子を見て人間関係や身辺自立等の質問に答えて、短時間でチェックできるものです。WISC知能検査等になると、時間がかかり実施や解釈には心理や言語聴覚士の資格が必要になり、ハードルが高くなります。（回答目安時間15分程度 / 採点目安時間15分程度）

Copyright © 2024 杉下 味香 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

① 発達支援の３つの支援を踏まえたニーズ把握（日常性の把握）

「発達支援（及び移行支援）」に即したニーズ把握

- 生活習慣、社会技能等の自立課題の把握（できる／できない）
- 運動や言語発達、認知特性の把握（得意／苦手）（強み／弱み）
- 社会性・行動・情緒の発達課題の把握（未学習・誤学習）
- 自分の希望（やりたいこと、好きなこと、将来の夢など）

「家族支援」に即したニーズ把握

- 家庭内または外出時に困っていることの把握
- 子どもの特性に応じた家庭環境、子育ての協力有無等の把握

「地域支援」に即したニーズ把握

- 園や学校、他施設で困っていること
- 連携や役割分担が必要な機関の把握

子どもが好きなように過ごしている場合、本児は特に困っていない場合もあります。また言語機能や他者視点など本児が困り事を明確に伝えることは多くはないです。そのような場合であれば、本児に対しては「どうなりたいか」を中心に尋ねてみましょう。

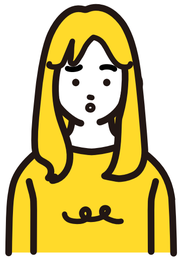
家族に対しては「誰が、どのような時に、どの程度困っているのか」を5W1Hの視点で具体的に尋ねる事が、次の課題整理では重要になります。その際に、ご家族の「主観」と、実際に起こった「出来事（事実）」を別けて記載することもとても重要となります。

発達支援・家族支援・移行支援は個別支援計画の必須事項となっています！

Copyright © 2024 杉下 味香 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

5）支援計画作成前の課題整理

② 課題の整理



学校は好きじゃないけど、お友だちと遊ぶのは楽しいからもっと休み時間にお友だちと遊びたい。

家でもそうですが、学校の先生からも話が一方的であったり、順番を待ったりすることが難しいと聞いています。自分から友だちに「遊ぼう」と声をかけることはできます。前もって順番の約束をしていると守れることもあるみたいです。家でもYoutubeを弟と順番に見るようタイマーを活用していますが先に見ようとして守れないことが多いので順番をもう少し守れたら家でも学校でもいいのですが。

WISC-Ⅳ知能検査の結果では、言葉だけの説明ではなく、メモや具体物などの視覚的な提示をした方が理解しやすいとのことだった。

家庭から聞いている様子と放デイでも同じところがあり、カードゲームでの順番が守れなかったり、話を一方的にしてしまったりすることがあります。だれの番か分かるように目印になるコマを置いておくと分かりやすいようでした。話をする時も誰が先に話すのか同じようにコマを置いていると分かるようです。自分から誰でも話しかけられるのが本当すごいです。

Copyright © 2024 杉下 味香 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

5）支援計画作成前の課題整理

Work 12

③ 課題の整理 ※黄色は支援計画に必須となります。

項目	ニーズ・意向等の把握	現状や強み	ニーズや気になることの解決策
健康・生活			
運動・感覚			
言語・コミュニケーション			
人間関係・社会性			
認知・行動			
家族支援			
移行支援			
地域支援・地域連携			

Copyright © 2024 杉下 味香 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

記入用

項目	ニーズ・意向等の 把握	現状や強み	ニーズや気になることの 解決策
人間関係 ・社会性			

③ 課題の整理（ポイント）

本児の「想い」や「希望」、保護者の「主観的な想い」や「実際に起こっている困り事（客観的な表現で）」を区別し、強みを活かしながらニーズへの解決策を考えることがとても大切です。課題の整理が丁寧にされていないと、個別支援計画を作成した際に、誰が困っていて、誰のための支援なのか？が分からなくなってしまいます。

項目	ニーズ・意向等の把握	現状や強み	ニーズや気になることの解決策
人間関係・社会性			

子どもの想いと親の想いどちらか？ではなく、どちらも扱います！

Copyright © 2024 杉下 味香 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

6）まとめ

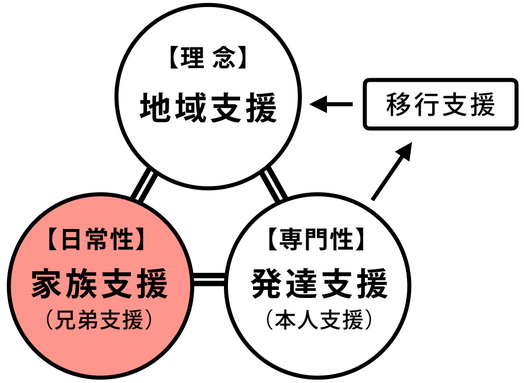
Work 13

振り返り

今日ここで紹介したキーワードを思い出しながら、今までの自身（事業所）の「視点」や「支援」を振り返り、新たな気づきや明日から取り入れたい事などをグループで共有しましょう！

5領域	20項目
人間関係・社会性	人との関わり / 遊びや活動 / 集団への参加
言語・コミュニケーション	２項関係 / 表出 / 読み書き
行動・認知	危険回避行動 / 注意力 / 見通し / 見通し / その他
運動・感覚	感覚器官 / 感覚器官 / 姿勢の保持 / 運動の基本技能 / 運動の基本的技能
健康・生活	食事 / 排せつ / 入浴 / 衣類の着脱

社会性を基準に「できる」「出来ていない」ではなく、本人や家族の「日常性」において希望「主観（想い）」には寄り添い、困り事「客観（事実）」には各種ツールを活用し、多角的にアセスメントを取ることが我々の専門性となります。



共感的理解	相手の感情や経験を深く理解し、その人の立場に立って感じる力や態度
無条件の肯定的関心	相手の話を良い悪いと決めつけず、ありのままを受容し、尊重する
自己一致	感情と行動が一致していることで、相手も自分自身の内面に向き合いやすくなる

一方向からではなく、多角的な視点でアセスメントする力が大切です。【面談・観察・検査】

利用する人からもアセスメントされていることを意識し、「相談してよかった」「今後も相談しよう」と思ってもらえる関わりが必要です。【積極的傾聴】

アセスメントから支援の提案ができるところまで、私たちの役割です。【課題の整理】

Copyright © 2024 杉下 味香 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

令和６年度 兵庫県専門コース別研修

児童分野

01 計画相談の基本姿勢
02 児童支援の基本姿勢
03 発達支援におけるアセスメント
04 発達支援におけるアプローチ
1）支援提供における基本視点
2）脳と身体の発達
3）順序性に応じた支援
4）運動支援の具体例
5）認知支援の具体例
6）まとめ

亀澤 康明

株式会社メディケア・リハビリ
こども療育事業「PARC」PARCあしや・にしのみや・ふくしま所長

[自己紹介]

大学で児童福祉学を学び、卒業後は保育園に勤務。医療法人にてMSWとしても経験を積んだ後、メディケア・リハビリ社に入社。子どもへの訪問看護に尽力し、2017年6月に、こども療育事業「PARC」を開設。現在は、地域療育促進のため、行政支援や学校コンサルテーションをメインに行い、地域の学校や幼稚園にて講演活動・学校訪問指導を行っている。主な専門は、発達運動学・関節運動学・相談援助・地域療育。（資格：保育士・理学療法士・社会福祉士・児童発達支援管理責任者・相談支援専門員）

[職　歴]

2003年 伊賀市社会事業協会
2005年 医療法人 貴和会
2011年 株式会社 メディケア・リハビリ

[活動歴]

2018年 芦屋市自立支援協議会 専門部会 構成員
2018年 兵庫県理学療法士会 阪神南支部 世話人
2021年 芦屋市自立支援協議会 実務者会 構成員
2022～2024年 芦屋市自立支援協議会 実務者会 会長

Copyright © 2024 亀澤 康明 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

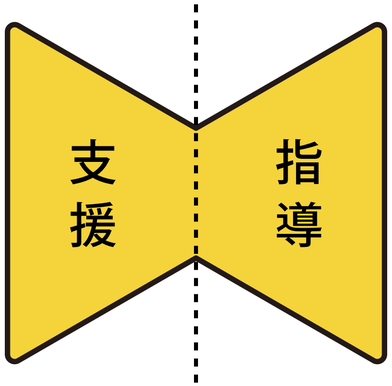
① 福祉と教育の基本的姿勢の違い

児童期支援における教育と福祉の基本的な姿勢の違いは、主にその目的とアプローチにあります。 教育は子どもの学びや成長を促進し、社会での自立を目指すための知識やスキルの習得を重視し一方、福祉は子どもの生活全般の支援を中心とし、生活の質を向上させることを目的としています。そのため、教育は一貫したカリキュラムや評価に基づくものに対し、福祉は個別のニーズに対応した柔軟な支援を重視するという違いがあります。

- 自ら実行（自己選択）に移せるように助言や提案を主に行う
- 目標に対する見通し、手立て、選択肢を記した「支援計画」
- 支える、心を向上させる

支援は「サポート」

発達支援
個別支援
相談支援
環境支援
保護者支援



教育指導
通級指導
生活指導
学習指導要領
生徒指導要領

（特別支援教育）

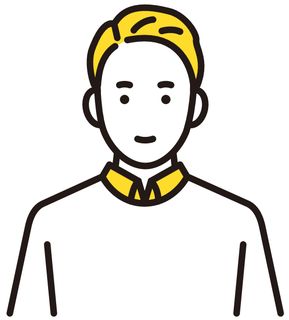
- 教育的ニーズの把握のための「実態把握」
- 目標や指導内容、手立て、方法などを記した「指導計画」
- 教える、能力を向上させる

指導は「ゴールに導く」

Copyright © 2024 亀澤 康明 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

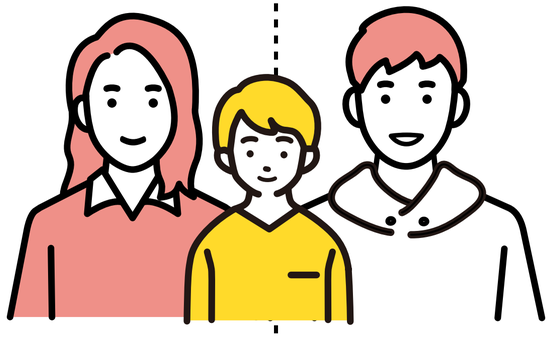
② 支援と指導との違い

支援 想い



【想い】は「主観的な事柄」

- 一つとは限らず複数存在
- プロセス（過程）
- 継続的、長期的
- アプローチが間接的
- 見守る（強みに着目）
- 事実に対して人それぞれの考えや解釈



指導 事実

【事実】は「客観的な事柄」

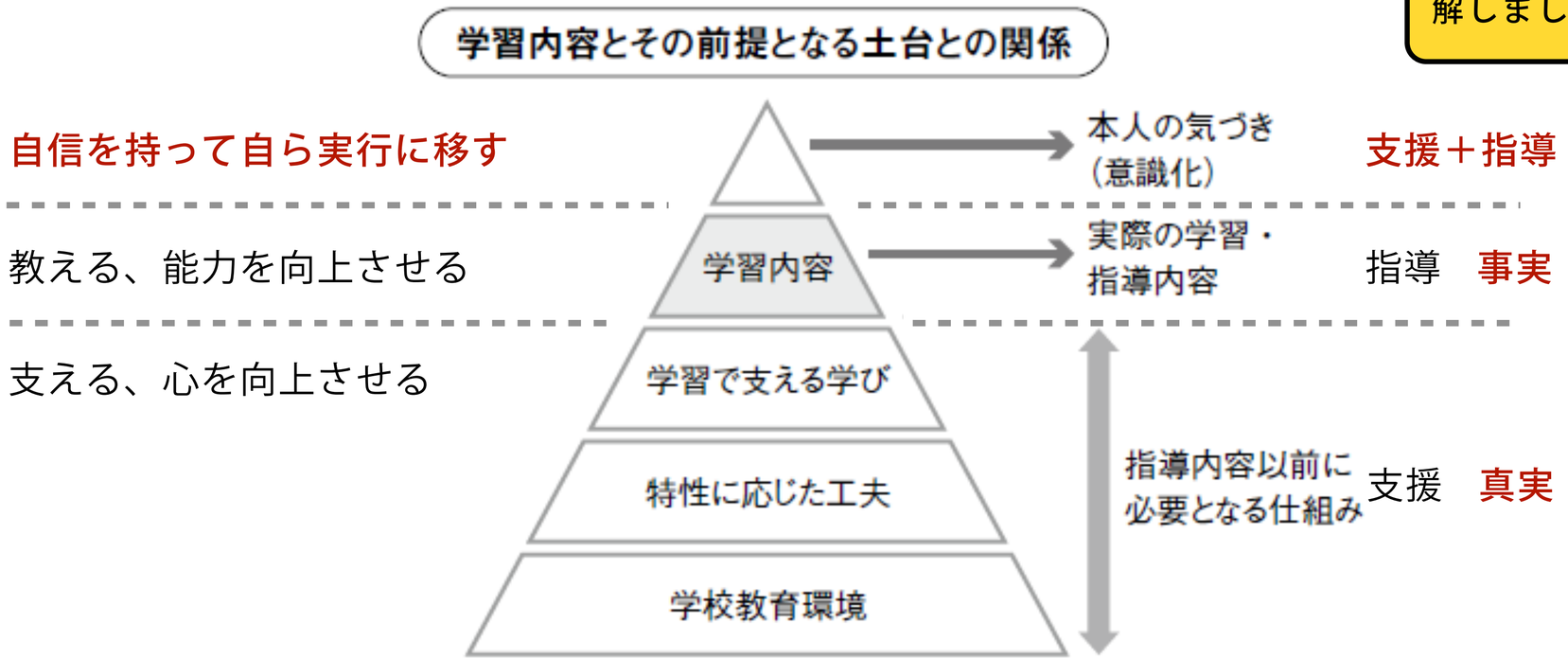
- 基本的に一つだけ
- ゴール（結果）
- 瞬間的、短期的
- アプローチが直接的
- 図る（課題に着目）
- 実際に起きた出来事や結果が指標となる

事実だけで片付けず、各々の想いに寄り添う習慣を目指す

Copyright © 2024 亀澤 康明 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

③ 支援と指導の理想の在り方

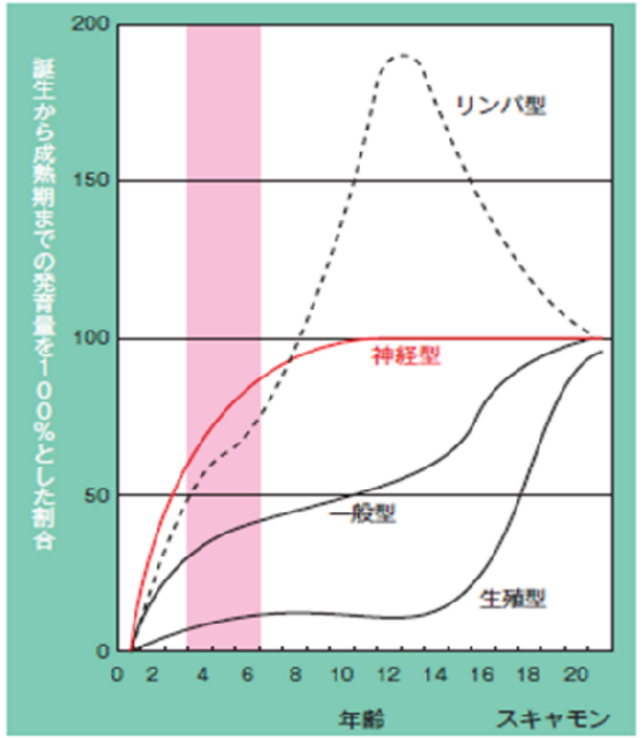
「人は自分の主観を通して物事を把握している※参考：アドラー心理学より」見えている世界は皆それぞれ異なります。批判するのではなく、相手の立場や目的・業務をしっかりと理解しましょう



Copyright © 2024 亀澤 康明 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

2）脳と身体の発達

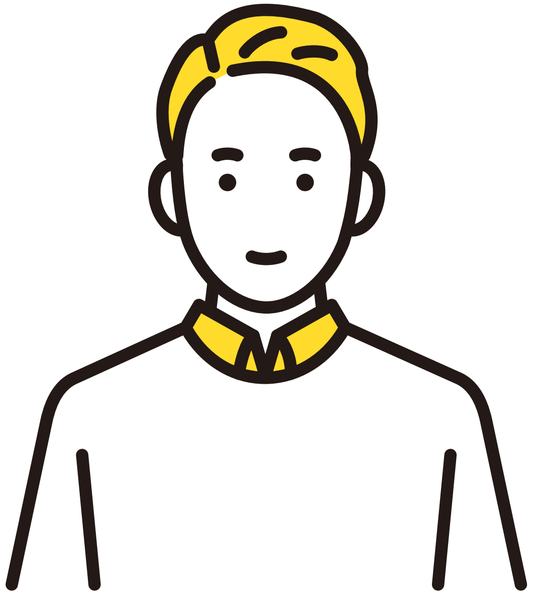
① 発達段階の特性理解



左図は「スキャモンの発育発達曲線」と呼ばれているものです。20歳の状況を100とした時に、人の成長の仕方は４つの型に分類されると言われています。

　その中で、運動能力の習得には神経型と一般型が関係していますが、このうち神経型は10歳までの段階でほぼ完成します、この時期に様々な動きを経験することで神経を刺激し、神経回路を開いておくことが、将来のスポーツ活動において大切だとされています。

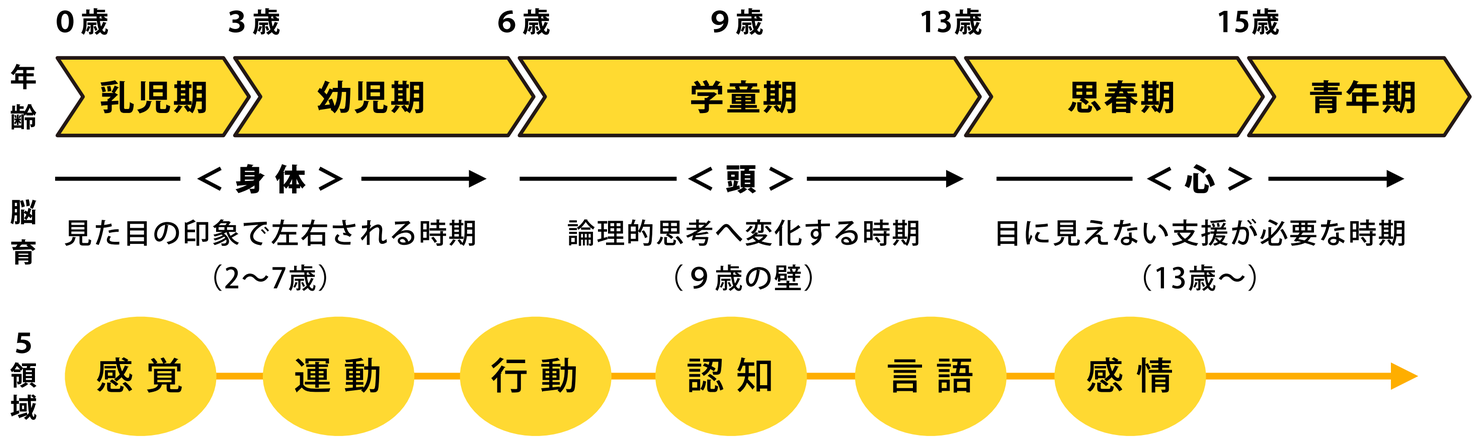
脳の器質的異常である発達障害は正常な脳機能の成長にて生きづらさを克服できる可能性はある。発達障害は「治らない」のではなくカバー（工夫）して「できる」を増やしていく「理解」が重要



Copyright © 2024 亀澤 康明 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

2）脳と身体の発達

② 意識化支援の流れ



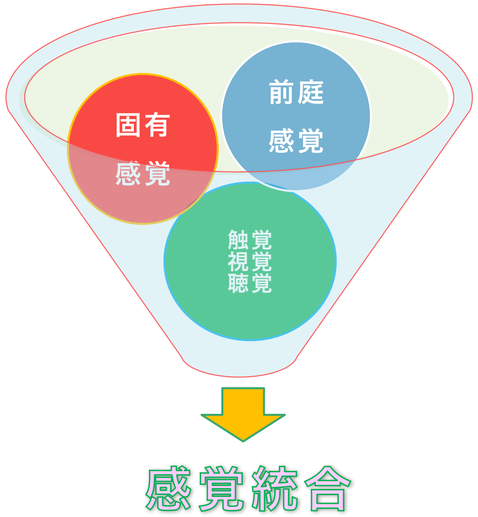
主体性を尊重しつつもタイミングを見た声掛けや提案にて「できた」から「できる」に自己認識できるかがＰＯＩＮＴとなる。5領域の獲得スピードは、利用児によって様々であり、スモールステップはもちろん、本人のペースを見守りながら行動に移せるための環境支援も大切である

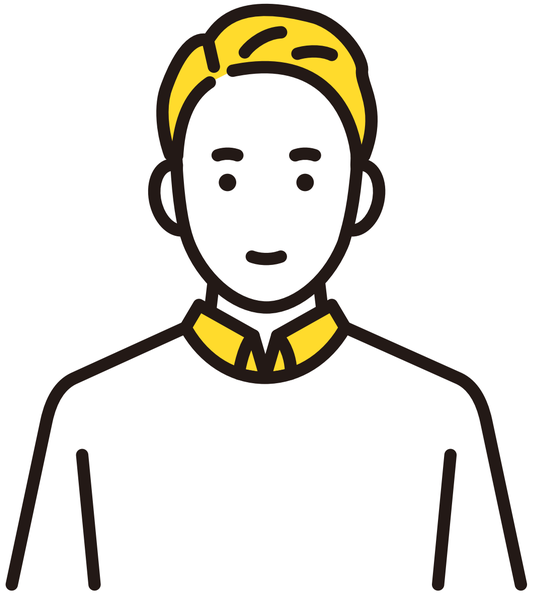
Copyright © 2024 亀澤 康明 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

2）脳と身体の発達

③６歳までは五感（からだ）を使う「感覚あそび」が重要

字を書く、人の話を聞く、友達と遊ぶ等、様々な感覚情報を脳が無意識に処理。感覚には、固有感覚(身体の動きや手足の状態の感覚)、前庭感覚(身体の傾きやスピードの感覚)、触覚、視覚、聴覚などを整理したり統合する脳の働きがあり、このような働きを感覚統合と言う。





Copyright © 2024 亀澤 康明 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

２）脳と身体の発達

④感覚統合が不十分だと・・

落ち着きがない	周りの刺激（感覚入力）にすぐに反応してしまう。注意、集中ができないなど
感覚刺激に対して鈍さがある	頭を叩いたり、自分から強烈な刺激を求める。体の痛みに気づかない。声をかけても気がつかないなど
言葉のおくれ	言葉が出ない。目が合わない、振り向かない。自分が思っていることをうまく言えないなど
触覚、前庭感覚、視覚や音刺激に対して過敏である	触られることを極端に嫌がる。ブランコなど大きく体が揺れたり、不安定になることを極端に怖がる。新しい場所が苦手。ドライヤー、泣き声など特定の音が嫌いであるなど
動作の協調性の問題	跳び箱、縄跳びやボール投げなどが大きな運動が苦手。ひも結びや箸の使い方など細かな運動が苦手など
自分の行動をうまくコントロールできない	待てない、すぐに怒るなど衝動的な行動をする。気分の切り替えができない、こだわりがあるなど

Copyright © 2024 亀澤 康明 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

2）脳と身体の発達

⑤ 発達支援の順序性

0歳 3歳 6歳 9歳 13歳 15歳

乳児期 → 幼児期 → 学童期 → 思春期 → 青年期

＜身体＞ ＜頭＞ ＜心＞

感覚 運動 行動 認知 言語 感情

行動支援
- 視覚支援
- 即時強化
- 行動の消去
- 行動肯定 etc..

↓

注意欠陥多動性障害 ADHD

認知支援
- 構造化支援
- 予防教育
- 認知を逸らす
- 見通し支援 etc..

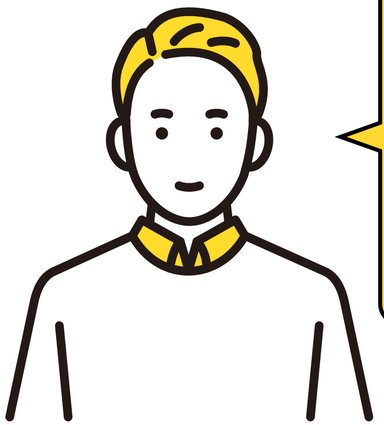
↓

自閉症スペクトラム ASD

感情支援
- 居場所支援
- 役割付与支援
- 感情ラベリング
- SST支援 etc..

↓

愛着形成不全 AD

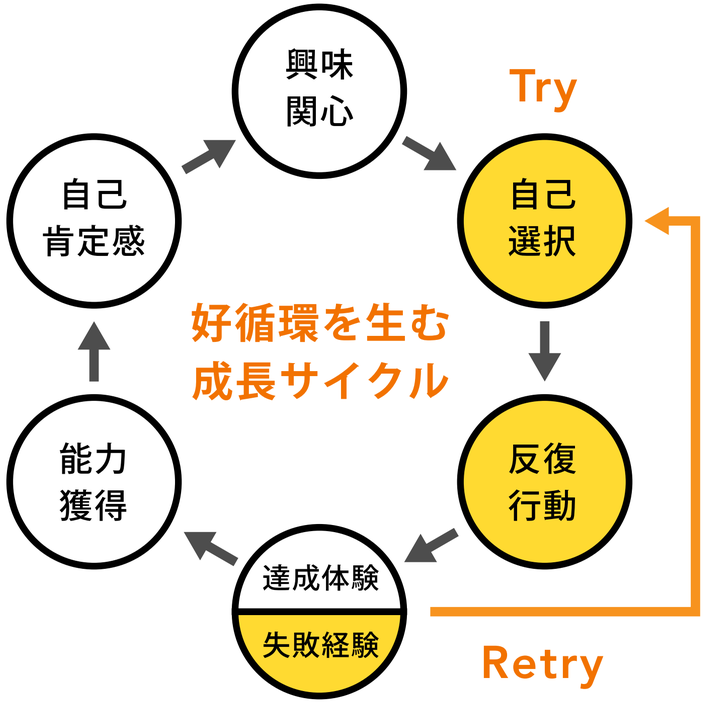


児童期支援では、発達支援の順序性が重要です。脳と身体の発達は相互に影響し合い、特に基本的な運動能力や感覚が整うことで、高次の認知機能や社会性が発達します。まず身体のバランスや姿勢保持などの基礎的な運動機能を支援することは、脳内での神経回路の発達を重視し、注意力や空間認知といった能力を育てます。子どもの成長に合ったスムーズな発達を支え、最適な学習や社会参加の基盤を形成することに繋がります。

Copyright © 2024 亀澤 康明 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

⑥ 成長サイクルとトライ＆リトライの精神で

子どもの興味や発達段階を正しく理解し、子どもが触ってみたい、やってみたいと思う環境（自己選択）を適切に用意。その環境と子どもを「提示」などによって結びつけて、子どもの自発的活動を促す（主体性を伸ばす）ことが好循環を生み出す。トライ（やってみようと心を動かす・少し難しいことに挑戦する・試行錯誤するなど）　＆エラー（失敗の経験・トラブル・葛藤体験など）という経験は子どもの発達において非常に重要なプロセスですが、療育ではエラー（失敗）で終わらずにもう一度試してみる！と思える関わり（声掛けや提案）がとても重要となります。



ここが、まさしく我々の専門性が問われる所です。どれだけのアプローチの数や種類を提供出来るのか？が、子どもの自発性や自己肯定感に大きく影響します！

Copyright © 2024 亀澤 康明 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

3）順序性に応じた支援

① 運動支援（運動療育）が必要な分類

感覚 → **運動** → 行動 → 認知 → 言語 → 感情 →

運動 （DCD等）	粗大運動	・姿勢(座位・立位)：安定・不安定・保持困難 ・移動(歩行・走行)：安定・不安定・困難 ・球技：得意・苦手　ジャンプ：可・片足・不可 ・体操(マット・跳び箱)：得意・苦手	微細運動	・手先：器用・不器用（興味関心：有・無） ・操作：お箸（　）ボタン（　）ハサミ（　） のり付け（　）折り紙（　）ひも結び（　） ・巧緻性：つまむ（　）ひねる（　）
	バランス	・片足立ち：可・不十分・不可 ・平均台：横歩き・継ぎ足・補助にて可 ・姿勢反射(外乱刺激)：可・不安定・困難 ・その他（　　）	協調運動	・目と手の協応：良好・不十分・困難 ・力加減(コントロール)：良好・不十分・困難 ・リズム(ダンス・縄跳び等)：可・不十分・苦手 ・その他（　　）

Copyright © 2024 亀澤 康明 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

3）順序性に応じた支援

② 行動支援が必要な分類

感覚 → 運動 → **行動** → 認知 → 言語 → 感情 →

行動 （ADHD等）	不注意	・集中力：長時間・短時間・続かない・過集中 ・忘れ物：ほぼ無し・時々あり・頻繁にあり ・整理整頓：得意・苦手・物をよく無くす ・危機管理：あり・不十分・なし(事故リスク大)	多動性	・多動：常時・ムラあり(AD)・居場所喪失時(ASD) ・公共の場(授業中)：私語・体動・離席・なし ・行事(式典)：私語・体動・離席・なし ・迷子：よくある・時々・ない
	衝動性	・順番待ち：待てる・列に割り込む・待てない ・会話への割り込み：ない・時々・頻繁 ・衝動的に物を触る：ない・時々・頻繁 ・感情コントロール：可・一部可・難しい	睡眠リズム	・普段：規則正しい・多少崩れる・崩れ大きい ・休日：規則正しい・多少崩れる・崩れ大きい ・日中傾眠：ない・時々ある・頻繁にある ・遅刻：ない・時々ある・頻繁にある

Copyright © 2024 亀澤 康明 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

3）順序性に応じた支援

③ 認知支援が必要な分類

感覚 → 運動 → 行動 → **認知** → 言語 → 感情 →

認知 （ASD等）	コミュニケーション	・意思疎通：言語・非言語・困難 ・アイコンタクト(視線)：合う・少し合う・合わない ・会話の相互性：可・字義通り・不可 ・その他（　　）	集団適応力	・集団活動：入れる・テンポ遅れる・入れない ・参加意欲：あり・なし　　行事：OK・NG ・ごっこ遊び：可・少数可・不可・一人遊び ・その他（　　）
	共感性	・表情：喜怒哀楽あり・不自然・平板 ・感情表出：微妙でも可・明確で可・なし ・感情理解：読み取れる・気づきにくい・不可 ・その他（　　）	こだわり	・こだわりの対象(もの並べ・興味の偏り・数字・ ・特定分野の知識・やり方・考え方・順番・色・ ・ルール・感触・空想・場所・時間・収集癖) ・その他（　　）
	感覚	・感覚：敏感・鈍感・特殊な感覚・問題なし ・影響する感覚：音・光・感触・臭い・色・食感 ・痛み：痛み感じる・気づきにくい・感じない ・その他（　　）	反復運動	・くるくる・ひらひら・ぴょんぴょん：有・無 ・反復動作時の抑制・制止：可・不可 ・常同行動：なし・あり（　　） ・その他（　　）
	記憶	・ワーキングメモリー：音声・イメージ・視空間 ・分類：記憶（　）・整理（　）・記憶の削除（　） ・記憶想起(ふりかえり)：短期・長期・誤想起 ・フラッシュバック：有・時々・行事毎・無	遂行機能	・模倣動作：可・不十分・不可 ・優位性：同時処理(視覚)・継次処理(聴覚) ・空間認知(ボディイメージ)：十分・不十分 ・その他（　　）

Copyright © 2024 亀澤 康明 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

3）順序性に応じた支援

④ 言語支援（言語療育）が必要な分類

感覚 → 運動 → 行動 → 認知 → **言語** → 感情 →

言語 （LD等）	学習	・書字：可・苦手な項目有り・全般的に苦手 ・読字：可・苦手な項目有り・全般的に苦手 ・計算：可・苦手な項目有り・全般的に苦手 ・数学的推論（単位・時間・図表・図形・割合）	言葉	・言語表出：可・単語レベル・不自然・困難 （オウム返し・クレーン・構音障害・吃音） ・言語理解：可・不十分・困難 ・語彙：使い方自然・増えるが不自然・増えない

Copyright © 2024 亀澤 康明 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

3）順序性に応じた支援

⑤ 感情支援が必要な分類

感覚 — 運動 — 行動 — 認知 — 言語 — **感情** →

感情 （AD等）	反応性型	・無関心：可・不十分・不可・人を避ける ・警戒心：あり・時々・なし ・情動の表出：可・不十分・不可 ・傾向（ASD様・無関心・用心深い・無表情）	脱抑制型	・人見知りのなさ：感じる・感じない・過度に接触 ・馴れ馴れしさ：あり・時々・なし ・外面と内面との差：大きい・中程度・小さい ・傾向（ADHD様・過関心・無警戒・注意引き）
	安全基地 （拠り所）	・人：父・母・祖父・祖母・兄弟・他(　　) ・物：玩具(　　)・布類(　　) ・場所：家・園(学校)・狭い場所(　　) ・その他（　　）	性格・行動	・性格：意地っ張り・わがまま・対人交流（　） ・自己肯定感：高い・普通・低い・波あり ・行動（感情変動・自傷・他傷・試し行動） ・傾向（体調変動・不眠・食欲なし・嘘つく）

Copyright © 2024 亀澤 康明 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

3）順序性に応じた支援

Work 16

⑥ 順序性のまとめ

0歳　3歳　6歳　9歳　13歳　15歳

乳児期 → 幼児期 → 学童期 → 思春期 → 青年期

＜身体＞ → ＜頭＞ → ＜心＞ →

見た目の印象で左右される時期（2～7歳）

論理的思考へ変化する時期（９歳の壁）

目に見えない支援が必要な時期（13歳～）

感覚 → 運動 → 行動 → 認知 → 言語 → 感情 →

◎ 療育とは受け身よりも**意識化**（主体性＝自己選択）が成長発達を後押し

◎その子にとって**「今」必要な支援**を提供できるように**順序性**を大事にする

◎考えて行動（言動）に移した結果、**感情の芽生え**が見受けられる

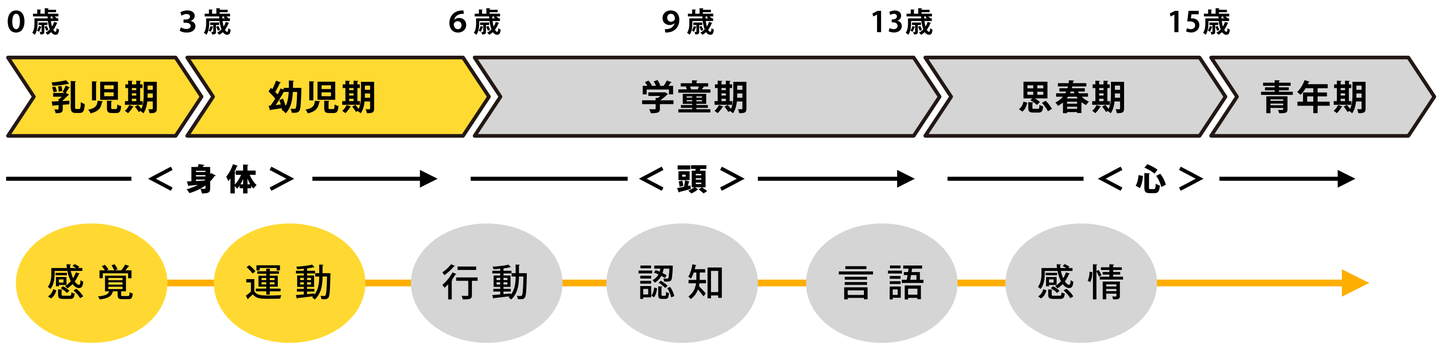
◎脳を育てることにも順序性があり**支援にリンクする**ことで具体性が高まる

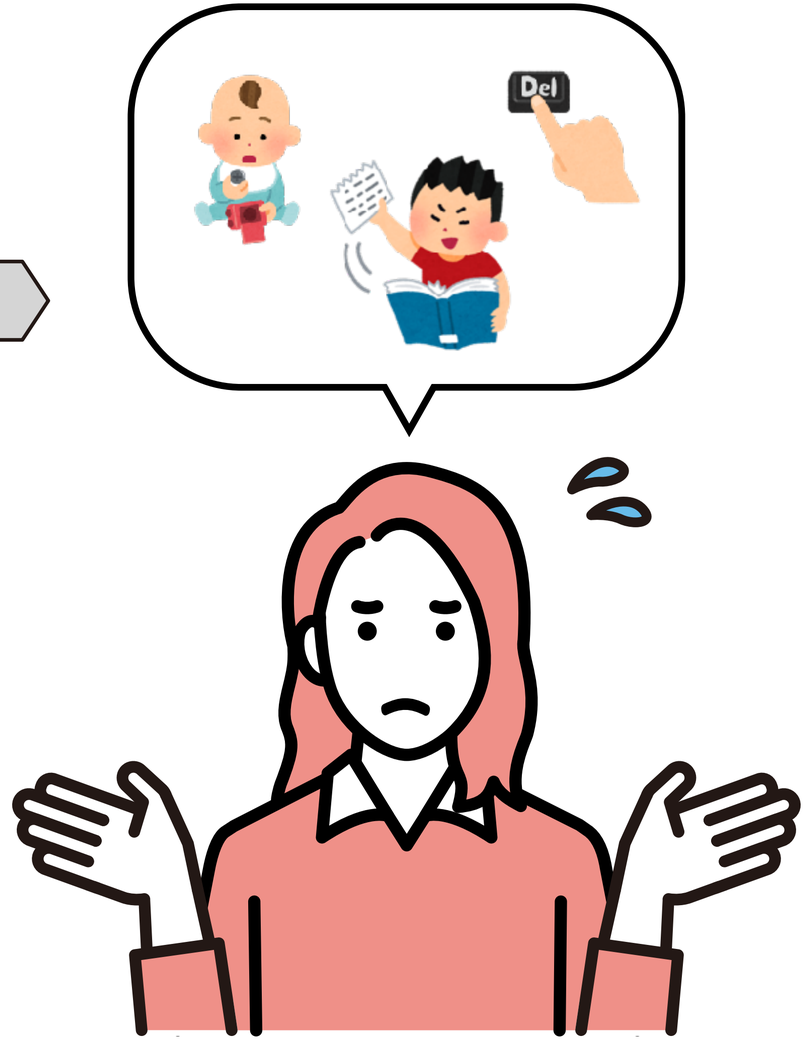
５領域に渡って支援することは必要ですが、事業所の対象年齢に応じて、「その時に必要な（獲得できる）支援に特化する」ことも、とても重要です。

Copyright © 2024 亀澤 康明 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

4）運動支援の具体例

① 親の困りごと





- ティッシュペーパーを出しまくる
- あらゆるボタンを押したがる
- 音量調節のつまみをひねりたがる
- 袋を開けたがる・物を破壊したがる

いたずらに見えてしまう ➡ ついつい怒ってしまう
➡ 子どもは納得いかずに泣きわめく ➡ 悪循環

Copyright © 2024 亀澤 康明 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

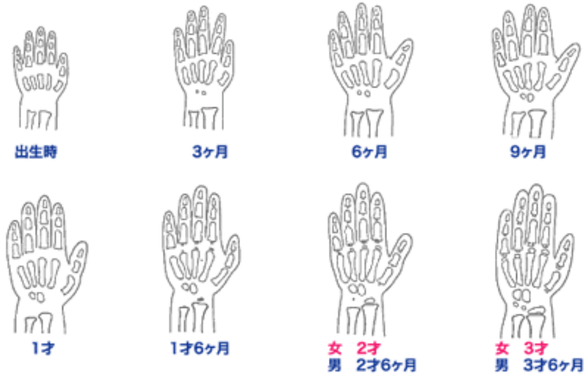
4）運動支援の具体例

② 身体の構造を理解する

骨が成長すると、うまく使ってみたい衝動にかられる＝運動の敏感期（６か月～４歳半）を理解し、正しくご家族に伝えていく。

手根骨（手首の骨）の発達

①有頭骨（生後2ヶ月）
②有鈎骨（3ヶ月）
③三角骨（3歳）
④月状骨（4歳）
⑤舟状骨（5歳）
⑥大菱形骨・小菱形骨（6歳）
⑦豆状骨（12歳）



基本的な動きが未発達であること（動作が上手でない）

動きやすくなったカラダを目一杯に動かしたい

運動を提案する上での基礎知識

①３６の基本的動作
②コーディネーション能力
③足の裏と足首の重要性

Copyright © 2024 亀澤 康明 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

４）運動支援の具体例

③ 基礎知識 【36の基本的動作】

人間の基本的な動きは36種類に分類できる。幼少期にできるだけたくさん経験し、バランスよく身につけることでが望ましいとされている。

- **普段の動作**から３６の動きがどれくらい出ているか
- 事業所での活動でも**振り返りの機会**をつくってみる
- **何度も繰り返す**動作には充実感と成功体験に繋がる
- ３６動作がバランスよく出せる**環境の提案**＝身体機能ＵＰ

↓

子ども達一つひとつの動作（行動）には意味がある！

山梨大学：中村和彦氏が提唱する子どもが伸びる36の基本動作

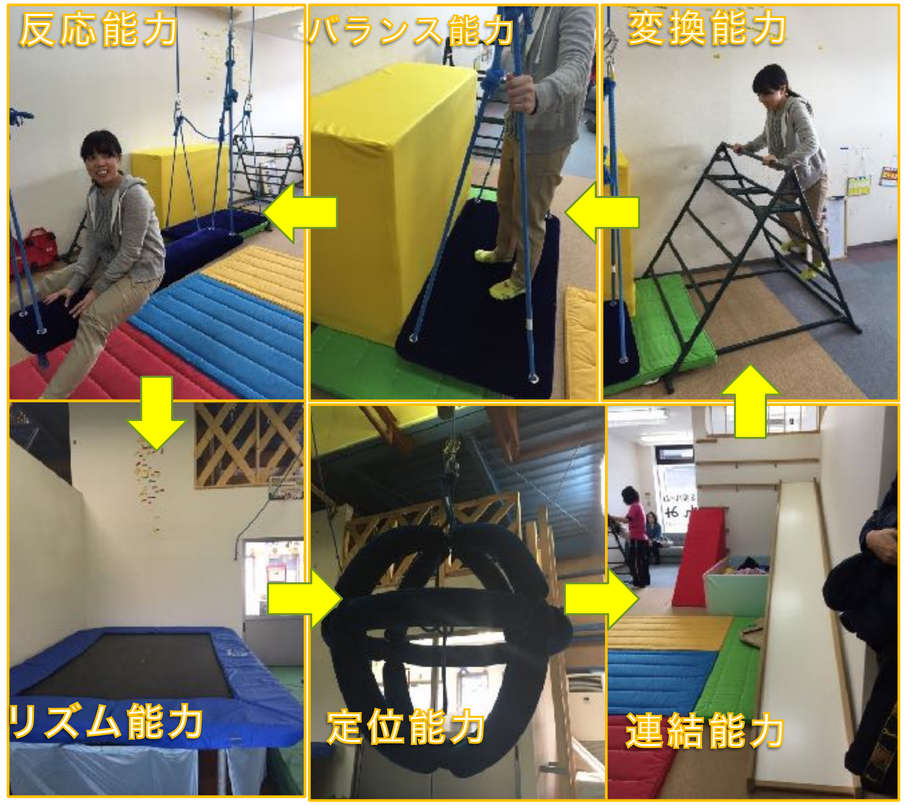
Copyright © 2024 亀澤 康明 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

4）運動支援の具体例

④ 基礎知識 【コーディネーション能力】

コーディネーション能力へのアプローチは、運動機能や空間認知を高め、自己有効感の向上に努めます。これにより、学習や社会参加に積極的になり、全体的な発達を促進します。

リズム能力	リズム感を養い、動くタイミングを上手につかむ
バランス能力	バランスを正しく保ち、崩れた姿勢を立て直す
変換能力	状況の変化に合わせて、素早く動きを切り替える
反応能力	合図に素早く反応して、適切に対応する
連結能力	身体全体をスムースに動かす
定位能力	動いているものと自分の位置関係を把握する
識別能力	道具やスポーツ用具などを上手に操作する



Copyright © 2024 亀澤 康明 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

4）運動支援の具体例

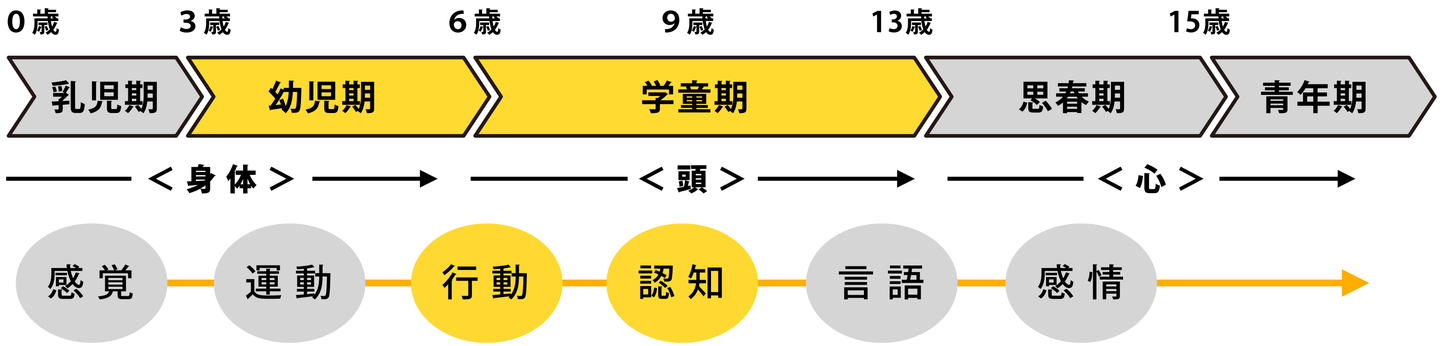
⑤ 基礎知識 【足の裏と足首の重要性】

学童期における足裏のメカノレセプター（接触覚受容器）は、脳の発達に大きな影響を与えます。これらの受容器は足裏の刺激を通して情報を脳に送り、運動機能やバランス感覚を特に、身体感覚のフィードバックが増えることで脳内の神経ネットワークが活性化し、運動能力の発達に寄り添うほか、集中力や空間認知能力の向上にもつながります。多様な足裏刺激を受けることは、感覚統合を促進し、運動だけでなく認知や社会性の発達にもポジティブな影響が考慮されています。

Copyright © 2024 亀澤 康明 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

5）認知支援の具体例

① 生活構造化支援



構造化は、生活や学習のさまざまな場面で、その意味を理解し、自分に何が期待されているのかをわかりやすく伝えたり設定したりするための方法で、特に「自閉症教育」の中では、従来から重視されてきた教育方法

構造化のメリット

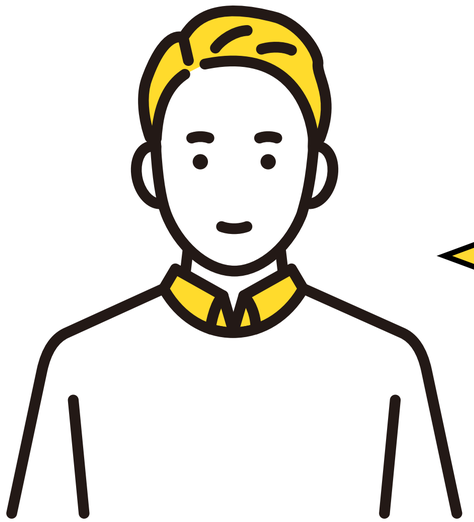
① 教育（療育）を受ける側が、理解しやすい
　不必要な混乱をしなくてすむ
② 効率的に学習するのを助ける
③ 安心して自信を持って学習、生活できる
④ 必要な情報に注意を集中しやすくする
⑤ 地域でできるだけ自立して生活する
⑥ 行動をマネジメントする

Copyright © 2024 亀澤 康明 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

5）認知支援の具体例

② 生活構造化支援の例とポイント

生活構造化支援のポイントは、子どもの特性や認知を踏まえ、各々が安心して過ごせる環境を整え、日常生活や学習面において視覚支援やスケジュール管理等を活用し組み合わせることが重要となります。



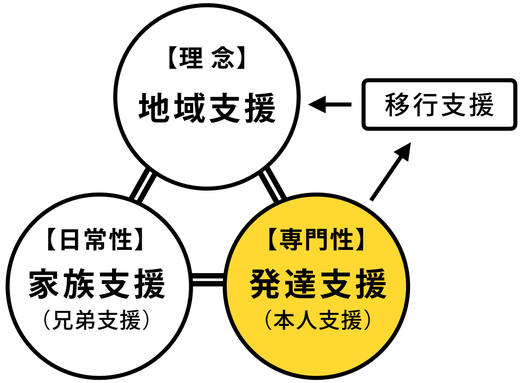
遊びや活動においても、視線や空間が変化するだけで集中持続も変動します。事業所でトライ＆リトライし、子どもにとって理解（認知）しやすい環境を家庭や学校とも共有しましょう

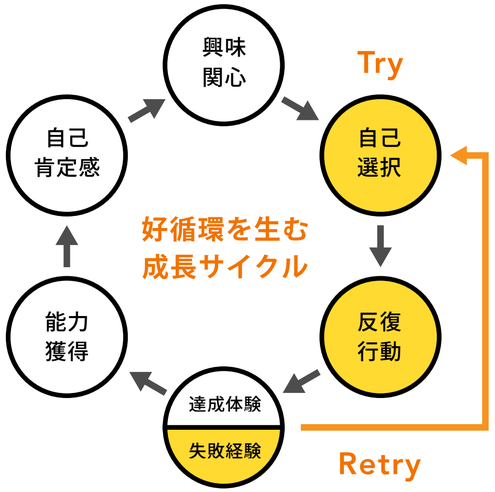
Copyright © 2024 亀澤 康明 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

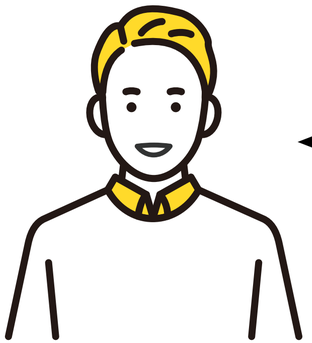
6）まとめ

振り返り

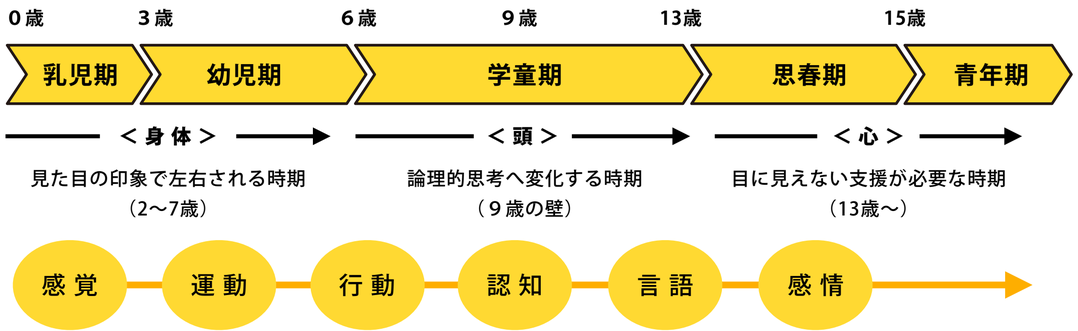
今日ここで紹介したキーワードを思い出しながら、今までの自身（事業所）の「視点」や「支援」を振り返り、新たな気づきや明日から取り入れたい事などをグループで共有しましょう！







脳と身体の発達を踏まえた支援の準備性を理解した上で、一人一人の成長（発達）に応じた支援を提供し、興味関心を引き出し自発性や自己肯定感の向上し、子どもが自ら発達する喜びを感じられるようになることが、我々の最も大切な専門性です。



Copyright © 2024 亀澤 康明 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

令和６年度 兵庫県専門コース別研修

児童分野

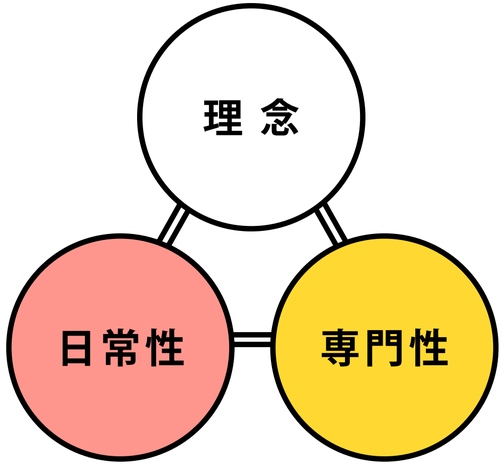
01 計画相談の基本姿勢

講師｜濱垣 隆之

振り返り

今日ここで紹介したキーワードを思い出しながら、今までの自身（事業所）の「視点」や「支援」を振り返り、新たな気づきや明日から取り入れたい事などをグループで共有しましょう！

支援者自身の価値観などで判断するのではなく、本人や家族の「日常性」においての希望や困り事を把握し、権利保障やエンパワメント、ノーマライゼーションという軸（姿勢）を保つ事が重要です。



地域社会から子どもを引き離している

一般的社会の場から子どもを引き離している

子どもの自由な時間から時間を奪っている

家族との時間を奪っている

Copyright © 2024 濱垣 隆之 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

02 児童期支援の基本姿勢

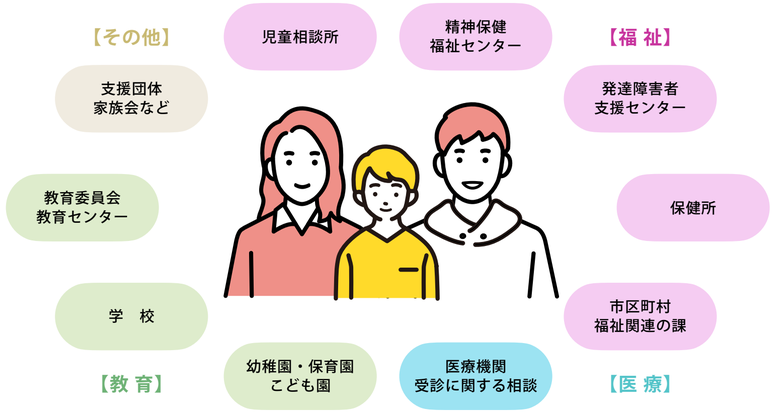
講師｜青木 悠

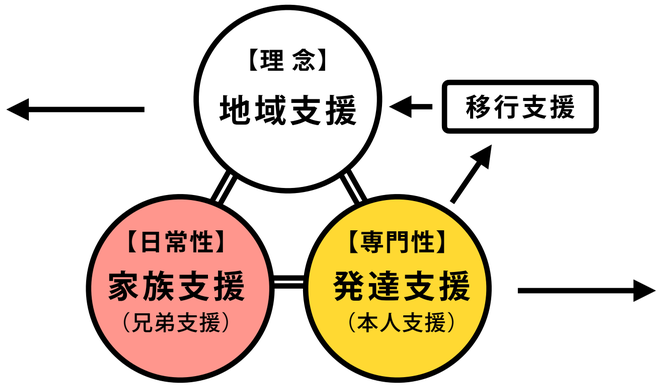
振り返り

今日ここで紹介したキーワードを思い出しながら、今までの自身（事業所）の「視点」や「支援」を振り返り、新たな気づきや明日から取り入れたい事などをグループで共有しましょう！

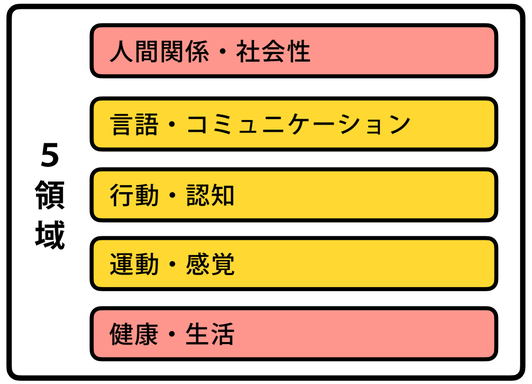
児童期支援の基本姿勢では、大人と異なる児童特有の支援を理解し、児発管と相談支援専門員が各々の専門性や領域に特化することが、本人や家族に対して切れ目のない支援に繋がります。

③ ライフステージに応じた「同世代と可能な限り同等な体験や生活を守ための」包括的な支援





① 保護者が申請者である



② 発達段階に応じた支援

Copyright © 2024 青木 悠 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

03 発達支援におけるアセスメント

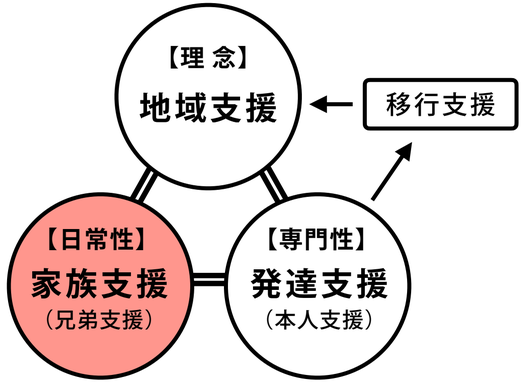
講師｜杉下 味香

振り返り

今日ここで紹介したキーワードを思い出しながら、今までの自身（事業所）の「視点」や「支援」を振り返り、新たな気づきや明日から取り入れたい事などをグループで共有しましょう！

5領域	20項目
人間関係・社会性	人との関わり / 遊びや活動 / 集団への参加
言語・コミュニケーション	２項関係 / 表出 / 読み書き
行動・認知	危険回避行動 / 注意力 / 見通し / 見通し / その他
運動・感覚	感覚器官 / 感覚器官 / 姿勢の保持 / 運動の基本技能 / 運動の基本的技能
健康・生活	食事 / 排せつ / 入浴 / 衣類の着脱

社会性を基準に「できる」「出来ていない」ではなく、本人や家族の「日常性」において希望「主観（想い）」には寄り添い、困り事「客観（事実）」には各種ツールを活用し、多角的にアセスメントを取ることが我々の専門性となります。



共感的理解	相手の感情や経験を深く理解し、その人の立場に立って感じる力や態度
無条件の肯定的関心	相手の話を良い悪いと決めつけず、ありのままを受容し、尊重する
自己一致	感情と行動が一致していることで、相手も自分自身の内面に向き合いやすくなる

一方向からではなく、多角的な視点でアセスメントする力が大切です。【面談・観察・検査】

利用する人からもアセスメントされていることを意識し、「相談してよかった」「今後も相談しよう」と思ってもらえる関わりが必要です。【積極的傾聴】

アセスメントから支援の提案ができるところまで、私たちの役割です。【課題の整理】

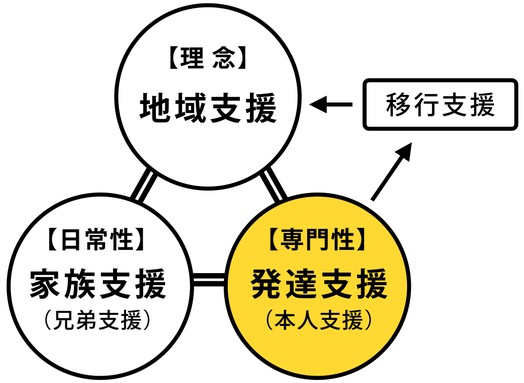
Copyright © 2024 杉下 味香 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

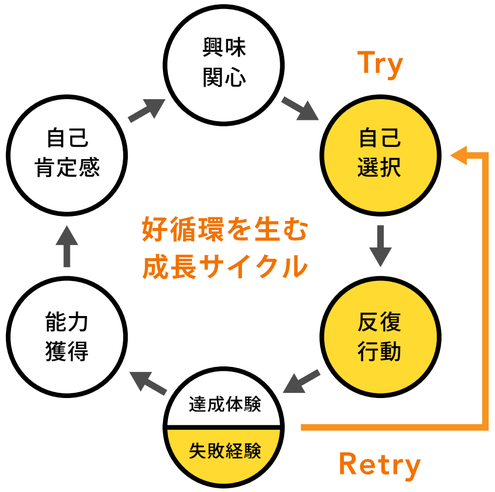
04 発達支援におけるアプローチ

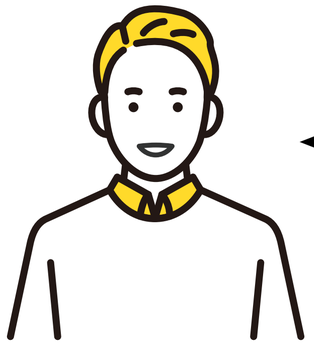
講師｜亀澤 康明

振り返り

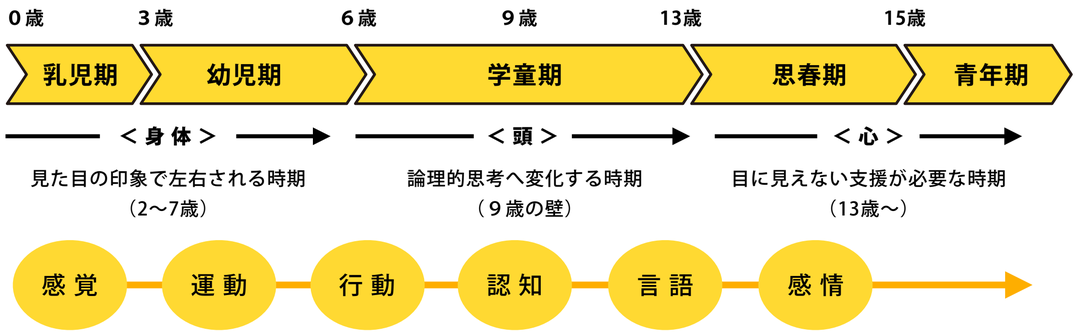
今日ここで紹介したキーワードを思い出しながら、今までの自身（事業所）の「視点」や「支援」を振り返り、新たな気づきや明日から取り入れたい事などをグループで共有しましょう！





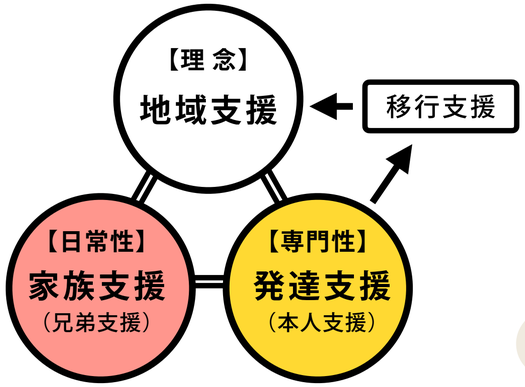


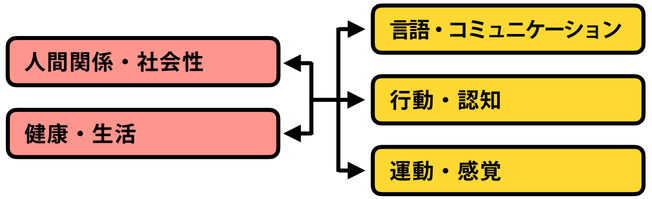
脳と身体の発達を踏まえた支援の準備性を理解した上で、一人一人の成長（発達）に応じた支援を提供し、興味関心を引き出し自発性や自己肯定感の向上し、子どもが自ら発達する喜びを感じられるようになることが、我々の最も大切な専門性です。



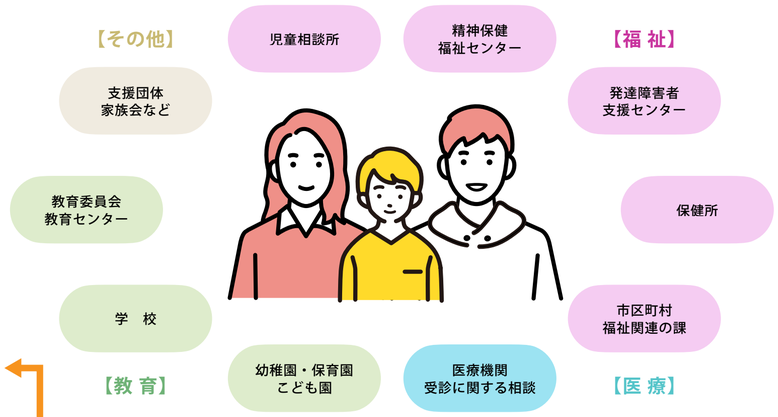
Copyright © 2024 亀澤 康明 / 神谷 牧人 All Rights Reserved.

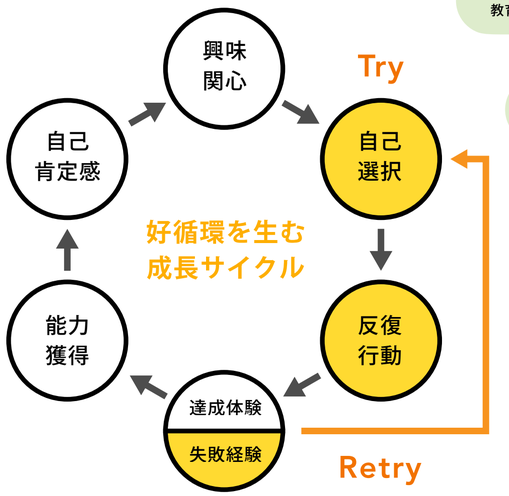
まとめ



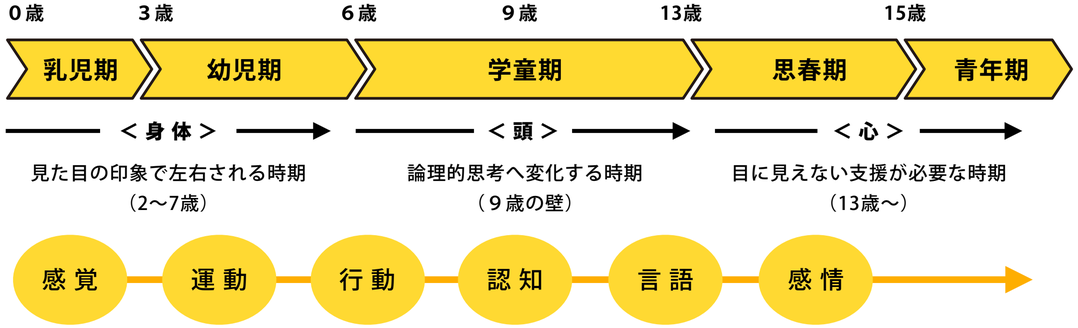


5領域	20項目
人間関係・社会性	人との関わり / 遊びや活動 / 集団への参加
言語・コミュニケーション	２項関係 / 表出 / 読み書き
行動・認知	危険回避行動 / 注意力 / 見通し / 見通し / その他
運動・感覚	感覚器官/感覚器官/姿勢の保持/運動の基本技能/運動の基本的技能
健康・生活	食事 / 排せつ / 入浴 / 衣類の着脱





共感的理解	相手の感情や経験を深く理解し、その人の立場に立って感じる力や態度
無条件の肯定的関心	相手の話を良い悪いと決めつけず、ありのままを受容し、尊重する
自己一致	感情と行動が一致していることで、相手も自分自身の内面に向き合いやすくなる



Copyright © 2024 神谷 牧人 All Rights Reserved.

受講者振り返りシート

Work 19

01 計画相談の基本姿勢

講師｜濱垣 隆之

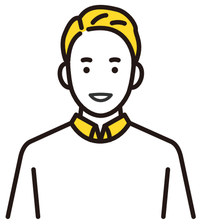
02 児童支援の基本姿勢

講師｜青木 悠

03 発達支援におけるアセスメント

講師｜杉下 味香

04 発達支援におけるアプローチ



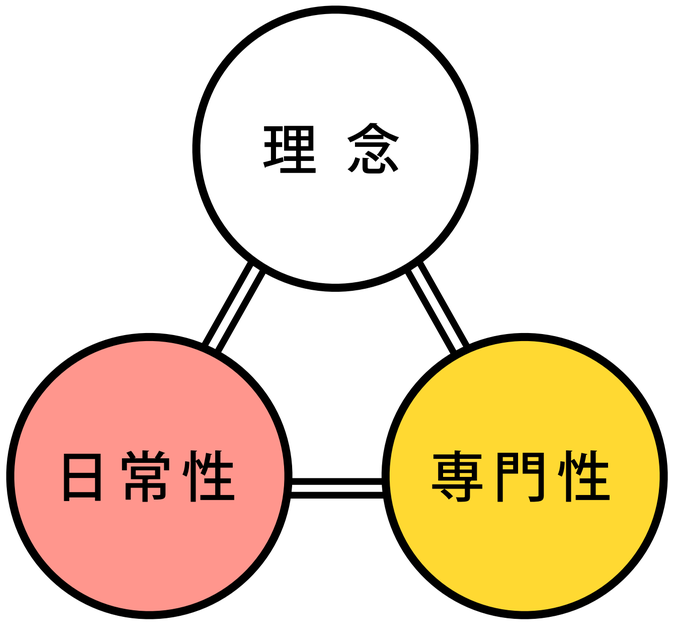
講師｜亀澤 康明

Copyright © 2024 神谷 牧人 All Rights Reserved.

まとめ

迷った際に立ち返るポイント

私自身が、支援や助言などで迷った際に、常に立ち返るポイントはこの３つの視点です。**主観的な判断になっていないか？そこに専門性はあるのか？**専門性があったとしても、目の前の方が**家に帰った際に、本当に生活は変わっているのか？**独りよがりの専門性になっていないか？そして、いつかは**「神谷さん、ありがとう！もう大丈夫だからねっ！」**と言ってもらえるように関われているのか？本当にこれぐらいです。



Copyright © 2024 神谷 牧人 All Rights Reserved.

令和６年度 兵庫県専門コース別研修

児童分野